

平成26年度 教員個人評価の集計・分析報告書

佐賀大学大学院工学系研究科

評価委員会

平成27年9月

目 次

平成 26 年度教員個人評価について	1
1. 教員個人評価の実施状況	3
1.1. 対象教員数, 個人評価実施者数, 実施率など	3
1.2. 教員個人評価の実施概要	3
1.2.1. 評価組織	3
1.2.2. 実施経緯, 内容, 方法等	3
1.2.3. 添付資料	5
2. 工学系研究科, 理工学部教員ならびに職員 (教育研究支援職員及び事務系職員) が組織的に一丸となって行った教育研究活動等	6
3. 評価領域別の集計及び分析	7
3.1. 教育の領域	7
3.1.1. 講義担当等に関する事項	7
3.1.2. 教育改善に関する事項	9
3.1.3. 教育研修・FD に関する事項	13
3.1.4. オフィスアワーの設置と学生相談に関する事項	15
3.1.5. 学生の受賞等	16
3.2. 研究の領域	18
3.2.1. 著書, 論文等の発表実績	19
3.2.2. 共同研究などに関する活動実績	20
3.2.3. 受賞等の実績	22
3.3. 国際・社会貢献の領域	23
3.3.1. 国際交流実績	23
3.3.2. 社会貢献実績	24
3.4. 組織運営の領域	28
4. 教員の総合的活動状況評価の集計・分析と自己点検評価	30
4.1. 各領域における自己点検評価点ならびに達成度	31
4.2. 評価領域に関する自己点検評価点のヒストグラム	32
4.3. 評価委員からのコメント	40

平成 27 年度工学系研究科評価委員会委員

平成 26 年度教員個人評価について

大学院工学系研究科における教員の個人評価は、各教員から提出された個人目標申告書、活動実績報告書及び自己点検・評価書を基に、大学院工学系研究科評価委員会の下に置かれた大学院工学系研究科個人評価実施委員会において行うこととされ、本報告書は平成 26 年度分について評価を実施し、その結果を取りまとめたものです。

教員自己点検・評価は、教育、研究、国際交流・社会貢献、及び組織運営の 4 つの領域ごとの活動状況評価と総合評価を、それぞれ 5 段階の評価点を付与して教員が行います。そして、個人評価実施委員会は、教員の資質向上と諸活動の活性化、並びに本学及び本研究科と学部・学部の目標達成に向けた活動という観点からそれら評価点の妥当性を点検しました。

専攻・学科毎の詳細は後段に記述していますので、平成 26 年度の工学系研究科・理工学部の取り組みについて、教育、研究、社会貢献の特色を以下に整理します。学生が記入するラーニングポートフォリオに対するチューター教員の指導記録は個人面談の記録も含め着実に対応が浸透していますが、学年進行が進むにつれて学生の入力率が低下しています。学生の入力率の更なる向上に向け、特に 2, 3 年次生についての強力な指導が必要と考えます。

学修意欲が高く優秀な学生の自主的組織である「STEPS」を通じた海外研修は、「文化の違いを理解しグローバルの意味」を海外の訪問先での交流を通じて考える機会を与えることを目的に実施しています。参加した学生は良い刺激を受け、意識が変わってきていることを報告会で感じます。昨年度末に文部科学省の「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に採択され開設した「環境・エネルギー科学グローバル教育プログラム」で本年 10 月に第 1 期生を受入れました。また、学長特別経費による「大学院教育のグローバル化推進のための基盤強化」事業で若手教員の海外長期派遣、大学院生海外短期派遣、学術交流協定締結のための海外調査等の事業を実施し、教育のグローバル化を強力に推し進めています。また、問題を抱える学生に対しては、早期の気づきを心掛け、佐賀大学保健管理センターと学生生活課のソーシャルワーカーと連携したアウトリーチケアを行っています。現場で対応される先生方はこれから障害学生支援対応に関して学んで行く必要があります。

また、教員が作成するティーチングポートフォリオ（簡易型も含む）についても研修会の開催により、年次計画に従って作成率が着実に向上していますが、作成率 100%（平成 27 年度）を早期に達成し、教育の質保証の基盤を整える必要があります。未作成教員への作成要請を頻繁に行うと共に、簡易版から標準版へのグレードアップを奨励してきています。

知能情報システム学科、機能物質化学科、機械システム工学科および電気電子工学科の 4 学科は日本技術者教育認定機構（JABEE）認定（継続認定も含む）を受けています。本年度は知能情報システム工学科が更新審査を受診しました。教育の質保証を担保する JABEE 認証において教員の労力が増加して来ていますが、外部評価であり国際性を有する認証です。工系学科は全て受審する方向でいます。

研究に関しては、教員個人の取り組みを重視し、科学研究費助成事業への応募、採択の向上に努めています。科学研究費の採択率を上げるため事前査読の実施等の対策を採っていますが低迷しています。大学が URA を採用する計画があり、次年度は少しでも改善することを期待します。外部資金の獲得のために、各種の研究助成への応募を勧めると共に、研究科長経費に基づく工学系研究科の特色と強みをさらに高める研究プロジェクト（大学院生を含む）支援と若手教員への研究助成を続けています。その成果は学術論文などを通じて発表され、教員のみならず、大学院生の受賞にも繋がり教育的効果もあげています。共同研究、受託研究等の獲得も確実に実績をあげてきていますが、地元企業とのそれが殆んど無く、早急に改善する必要があると考えています。

社会貢献については、佐賀県工業連合会（県工連）と連携した「工学系高度人材育成コンソーシアム佐賀」を軸とした人材育成活動（インターンシップ、企業見学、大学研究室見学、企業トップ経営者によるキャリア講演会など）を行っています。本年度もアクティブ・ラーニングの一つである PBL(Problem Based Learning)を県工連加盟企業の協力を得て機械システム工学科で実施しました。本年度は都市工学科でも公共事業関連で開講されました。また、国や地方自治体の各種委員会における学識委員や専門委員として多数の教員が参加し、地域の発展に寄与しています。

これらの取り組みは、理工学部学士課程の教育の質保証、大学院工学系研究科における研究の実践による技術イノベーション創成、理工系人材の育成、地域貢献とグローバル化推進を象徴するものです。このような諸活動は工学系研究科の教員と職員、そして学生の皆様が設定した目標に向かって邁進する力に支えられています。今後も、継続した活動が教員個々に求められています。

一昨年 11 月には「国立大学改革プラン」が文科省から公表されました。12 月には工学分野の、昨年 3 月には理学分野の工学系研究科・理工学部のミッションの再定義が確定し公表されました。また、本年度末には「理工系人材育成戦略」が公表されました。本報告書が公表される時点では第 2 期の点検が始まり法人評価を受け、第 3 期に向けた佐賀大学の改革が加速することになります。理工学部と工学系研究科は上記の方向性を見据えて組織改編に向けて動き始めています。本報告書を手にしておられる理工学部後援会、佐賀大学同窓会、佐賀大学校友会、卒業生、修了生をはじめとした工学系研究科・理工学部のステークホルダの皆様のご意見等は改革とその実行の原動力になります。教員は危機感を持ち不断の自己研鑽と社会的要請に対応できる組織再編を進めることが工学系研究科・理工学部の存続と発展に資するものと確信しています。皆様のご指導とご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

工学系研究科長・理工学部長
石橋孝治

1. 教員個人評価の実施状況

1.1. 対象教員数，個人評価実施者数，実施率など

大学院工学系研究科（博士前期課程と博士後期課程）所属の教員（教授，准教授，講師，助教）に対して，別紙様式1～4に関して教員個人評価を実施し，下記表のとおり回答を得た（回答率 99.3%）。（平成 27.5.30 現在）

専攻	対象教員数	回答率(%)
数理科学専攻	12	100
物理科学専攻	13	92.3
知能情報システム学専攻	16	100
循環物質化学専攻	21	100
機械システム工学専攻	19	100
電気電子工学専攻	17	100
都市工学専攻	19	100
先端融合工学専攻	20	100
工学系研究科（合計）	137	99.3

1.2. 教員個人評価の実施概要

1.2.1. 評価組織

工学系研究科（理工学部）評価委員会ならびに工学系研究科（理工学部）個人評価実施委員会

1.2.2. 実施経緯，内容，方法等

① 平成 27 年 3 月 11 日

- 研究科長は，全教員に対し平成 26 年度活動の自己点検・評価を依頼し，別紙様式 1，3，4 を 3 月 20 日から 4 月 17 日までの間に提出を依頼した。

同時に，平成 27 年度の各様式もメールにて送付し，別紙様式 1（平成 27 年度活動の「個人目標申告書」）の作成・提出も併せて依頼した。

② 平成 27 年 3 月 13 日

- 研究科長から，全教員に対し，評価基礎情報データシステム入力について依頼した。

③ 平成 27 年 4 月 1 日

- 情報企画委員会委員長から，全教員に対し，評価基礎情報データシステム入力

について依頼した。

- ④ 平成 27 年 4 月 8 日 評価委員会開催
 - 平成 26 年度教員個人評価のスケジュールを決定した。
 - 平成 26 年度教員個人評価集計と分析報告書（様式）について決定した。
 - 工学系研究科個人評価用集計シート及び理工学部・工学系研究科個人業績集約方法の様式を決定した。
- ⑤ 平成 27 年 5 月 8 日
 - 「個人評価用集計シート」「個人評価用集計ツール」「個人業績集約の方法」を各専攻長に配布した。
- ⑥ 平成 27 年 5 月 8 日
 - 研究科長は、各教員から提出された平成 26 年度の各様式（1. 3. 4）を各専攻長に送付した。また、同時に「平成 26 年度教員個人評価（専攻）集計と分析報告書」の様式も送付し、同報告書の作成を依頼した。（USB メモリーを手渡した。）
- ⑦ 平成 27 年 5 月上旬から 5 月下旬
 - 各専攻長は、別紙様式 1，サーバーにアップロードされた評価基礎情報データシステム及び別紙様式 3 に基づいて、本学及び本研究科の目標達成に向けた活動という観点から審査し、これらを基に評価を行い、評価結果を、別紙様式 4（平成 26 年度の「個人評価結果」）に記載の上、5 月末までに別紙様式 1・3 を含め、研究科長宛に送付することになった。
また、同時に、各専攻長は、平成 26 年度の個人評価結果について、各専攻の集計と分析を行い、その結果を、「平成 26 年度教員個人評価（専攻）集計と分析報告書」に記載し、研究科長へ提出した。（専攻長は、USB メモリーと印刷物（ペーパー）を研究科長へ手渡した。）
- ⑧ 平成 27 年 6 月初旬
 - 研究科長は、工学系研究科個人評価実施委員会に対し、個人評価結果の審査を付託した。
- ⑨ 平成 27 年 6 月中旬
 - 同委員会は、本学及び本研究科の目標達成に向けた活動という観点から審査し、その結果を研究科長へ報告した。
- ⑩ 平成 27 年 7 月中旬～下旬
 - 研究科長は、別紙様式 1，サーバーにアップロードされた評価基礎情報データシステム及び別紙様式 3「自己点検・評価書」に基づいて、本学及び本研究科の目標達成に向けた活動という観点から審査し、別紙様式 4（平成 26 年度「個人評価結果」）の評価内容を確認し必要があれば、評価結果の補足等及び研究科長コメントを記載することとなった。
 - なお、研究科長は、審査にあたり、審査の公平性を確保するために、必要に応

じ、他の職員から意見を求めることとなった。

また、研究科長は、必要に応じ、評価内容について、当該教員から意見を聴取することになった。

⑪ 平成 27 年 9 月 9 日

- 研究科長は、自己点検・評価書に評価結果を記入した別紙様式 4（平成 26 年度「個人評価結果」）を、当該教員に封書で通知した。その際、専攻毎の平成 26 年度教員個人評価集計と分析報告書を添付した。
- なお、各教員は個人評価の結果に対して異議がある場合は、通知後 2 週間以内に異議申立書（様式任意）を研究科長に提出することとなった。

⑫ 平成 27 年 9 月下旬

- 研究科版の平成 26 年教員個人評価集計・分析報告書（案）を取り纏めた。

⑬ 平成 27 年 9 月下旬

- 研究科長は、研究科版の教員個人評価集計・分析報告書を作成し、工学系研究科評価委員会に対し、本研究科の教員個人評価結果の総合的な検討を付託する。

⑭ 平成 27 年 10 月 7 日

- 評価委員会は、本研究科の教員個人評価結果の総合的な検討を行い、同報告書を承認し、その結果を研究科長に報告する。

⑮ 平成 27 年 10 月上旬

- 研究科長は、「教員個人評価集計・分析報告書」を添えて工学系研究科教員の個人評価結果を学長に報告する。

1.2.3. 添付資料

佐賀大学大学評価の実施に関する規則（平成 17 年 3 月 1 日制定）

佐賀大学大学院工学系研究科における教員の個人評価に関する実施基準

「大学院工学系研究科における個人達成目標の指針」（教員用）

個人目標申告書（別紙様式 1）

教員報告書（別紙様式 2）：工学系研究科・理工学部教員活動実績年次報告書（推奨様式）に読み替え

自己点検・評価書（別紙様式 3）

個人評価結果（別紙様式 4）

2. 工学系研究科，理工学部教員ならびに職員（教育研究支援職員及び事務系職員）が組織的に一丸となって行った教育研究活動等

はじめに，工学系研究科教員ならびに職員が組織的に一丸となって行った教育研究活動等を以下に示す．

- 学生の留年率，就職率，進学率の改善に対する取組み
- 工学系研究科国際パートナーシップ教育プログラム(平成16年度より)：相手国：中国，韓国，ベトナム，インドネシアなど
 - ▶ 数理学専攻，物理学専攻，循環物質化学専攻，機械システム工学専攻，電気電子工学専攻，都市工学専攻，先端融合工学専攻の教員が参画
- 環境・エネルギー科学グローバルプログラム（PPGA）（2013年10月より）
 - ▶ 外国人留学生と日本人学生が共学し，世界的な環境とエネルギー問題の解決に関する講義などの教育カリキュラムを全て英語で実施するプログラムである．
 - ▶ 前期課程プログラムは，循環物質化学専攻，機械システム工学専攻，電気電子工学専攻，都市工学専攻，先端融合工学専攻の教員が，また博士後期課程プログラムは，システム創成科学専攻の化学，機械，電気電子，都市，先端融合分野の教員が参画
- 大学院戦略的国際人材育成プログラム(SIPOP)：
 - ▶ 佐賀大学大学院工学系研究科博士後期課程の教育プログラムで，学術交流協定に基づいて実施されている国際共同研究や国際共同教育を強化し，佐賀大学特有の実質的な国際活動を発展させるために，佐賀大学独自に奨学金制度（佐賀大学奨学金留学制度）を設け，アジア諸国から外国人留学生を博士後期課程に受入れるものである．工学系研究科博士後期課程の教員が参画
- 佐賀大学短期留学プログラム（SPACE）（平成13年度より）：
 - ▶ 佐賀大学の交流協定校に所属する学生を対象とした短期留学プログラムで，日本語コース（SPACE-J：学部生および修士課程の院生が対象）と，英語コース（SPACE-E：学部生のみが対象）がある．佐賀大学での学習や研究，また日本人学生や地域の人々とのふれあいを通じて，日本社会についての知識や理解を深める．学生の受け入れや講義を担当
- 高等学校ジョイントセミナー，出張講義等
- 環境美化エコ活動
 - ▶ 省エネルギー活動：夏季ピーク電力の抑制策：7月，8月期ならびに12月，1月期の空調断続運転
 - ▶ 定期的なキャンパス環境美化デーにおける一斉清掃

3. 評価領域別の集計及び分析

3.1. 教育の領域

3.1.1. 講義担当等に関する事項

表 3.1 に教員の担当科目数（学部，修士），担当コマ数（半期当り換算），卒業研究指導学生数，修士特別研究指導学生数，博士研究指導学生数（主指導）の平均値を表している。

表 3.1 教員 1 人当たりの講義担当，指導学生数

専攻	職種	学部 (教養教育科目を含む)			大学院			
		担当科目数/教員	担当コマ数	卒研学生指導数	担当科目数/教員	担当コマ数	修士学生指導数	博士学生指導数
数理科学専攻	教授	4.33	4.33	3.17	3.33	3.33	3.00	0.33
	准教授 (含講師)	3.50	3.50	2.83	2.33	2.33	0.83	0
物理科学専攻	教授	6.83	7.50	3.33	2.83	3.52	2.67	0.67
	准教授	5.00	5.92	3.00	2.67	3.22	1.67	0.00
知能情報 システム学専攻	教授	4.5	5.34	3.13	1.94	2.08	1.63	0.5
	准教授 (含講師)	5.8	4.74	3.8	1.2	1.2	2.6	0.2
	助教	1.3	3.11	1	0	0	0	0
循環物質化学 専攻	教授	8.90	8.00	3.50	4.40	3.00	2.50	0.85
	准教授	8.29	9.93	3.00	6.29	5.44	2.86	0.29
	助教	4.50	5.03	2.75	0	0	0.25	0
機械システム 工学専攻	教授	4.43	4.86	3.86	2.36	2.58	3.29	0.86
	准教授 (含講師)	4.44	5.06	3.00	1.78	1.28	2.67	0.00
	助教	1.33	1.40	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00
電気電子工学 専攻	教授	3.67	5.57	4.17	3.54	3.31	4.5	0.33
	准教授 (含講師)	4.38	5.94	3	4.25	3.35	2.88	0.13
	助教	1.5	2.5	0	0	0	0	0
都市工学専攻	教授	5.47	5.71	4.24	2.24	1.99	2.53	1.56
	准教授 (含講師)	4.50	4.99	4.13	2.00	1.89	2.00	0.00
	助教	5.00	6.50	0.00	0.50	0.25	0.00	0.00
先端融合工学 専攻	教授	4.9	4.2	3.5	5.2	4.6	4.7	1.6
	准教授	6.9	9.1	3.0	4.6	3.9	4.0	0.0
	助教	2.7	4.3	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0

受講生数は教務システムに登録された履修者数
授業担当コマ数は，半期当りに換算する。（通年 1 コマの科目は 2 コマとする。） 1 科目を複数教員で担当する場合は，実働時間とする。

【数理学専攻】

- 准教授は教授よりも若干少ない数の学部授業科目を担当しているが、これには2つの理由がある。1つは准教授の中に前学期途中から赴任した人(1名)が含まれ、その人の正式な授業担当は後学期のみとしたためである。もう1つの理由は、准教授の中に他の独立行政法人を兼任している人(1名)が含まれ、その人の講義負担の一部を当該法人からの経費負担による非常勤講師任用としたためである。
- 卒業研究や修士課程の主任指導に関しては、教授のほうが多い。

【物理学専攻】

- 教授は、准教授よりも多くの科目を担当している。(4:3)
- 役職者については、負担の軽減をはかる措置を講じているが、実際はあまり軽減されていない。
- 以前より指摘されているが、教員の一部に過重負担のおそれがある。

【知能情報システム学専攻】

- 准教授は教授よりも多くの科目、学生の教育を担当している。博士後期課程の主旨指導の有資格者として博士学生を指導している。また、副指導教員となって、実質指導を行っている教員がいる。
- 助教は基礎科目や実験科目を担当している。
- 本専攻では、平成25年度及び26年度末で4名の教授の退職が発生したため、教員の教育負担に偏りが発生している。補充人事を進めている。

【循環物質化学専攻】

- 教授と准教授は、学士課程および大学院博士前期課程の教育を平等に担当するようカリキュラムが組まれており、卒業研究の指導学生数もほぼ同じである。担当科目数および担当コマ数は、例年と大きな変化はない。また、助教も卒業研究性を担当し、卒業研究の指導を行っている。
- 教授の修士論文研究主旨指導学生数は平均2.50名、博士論文研究主旨指導学生数は平均0.85名である。准教授は、修士論文研究主旨指導学生数平均2.86名、博士論文研究主旨指導学生数平均0.29名である。博士論文研究主旨指導は主に教授が担当しているが、准教授の一部も、博士後期課程の主旨指導の有資格者として博士学生を指導している。平成26年度は、2名の准教授が2名の博士号取得者を輩出した。また、副指導教員となって、実質指導を行っている教員がいる。
- 助教は主に実験及び演習の指導を担当するとともに、主要科目以外の科目を担当している。このために担当科目数および担当コマ数が多くなっている。卒業研究指導学生数は平均2.75名で、さらに、助教は、教授あるいは准教授の指導支援(学生の学習や生活相談など)を行っていることが報告されている。

【機械システム工学専攻】

- 担当科目数については、昨年度は准教授・講師の数値が高かったが、今年度は教授と准教授・講師の数値はほぼ同じである。准教授・講師の数値が若干高いのは、実

験や演習など複数教員で同時に担当する科目を担当していることによると考えられる。

- 助教は機械工学実験Ⅰ，機械工学実験Ⅱ，大学入門科目（創造工学入門）などで実験や演習の指導を担当している。

【電気電子工学専攻】

- 一部の准教授・講師は教授よりも多くの科目を担当している。
- 助教は主に実験指導を担当しているが，年間を通じて1コマ程度の学部講義も担当している。実験指導する学生数は平均90人で前期後期を通じて6コマ（半期，3，4，5校時担当）を担当している。更に，助教は，教授あるいは准教授の指導支援（学生の学習関わる生活相談など）やチューター担当を行っていることが報告されている。

【都市工学専攻】

- 教授も准教授も，全体的に多くの科目，学生の教育を担当している。助教は主に実験指導を担当しているが，座学としての講義を教授・准教授とともにやっている教員もいる。
- 5名の教授が博士後期課程の主任指導の有資格者として博士学生を指導している。また，14名の教授・准教授が副指導を行っている。また，留学生も多く受け入れている。
- 13名の教授・准教授が博士前期課程の主任指導の有資格者として修士学生を指導している。また，留学生も多く受け入れている（私費10名，国費2名）。
- 指導する学生数は，卒業研究（講師以上）で平均4.2人，修士指導（講師以上）で平均2.5人，博士主任指導（教授）で平均1.6人である。担当する授業コマ数は，学部で年間平均5.7コマ，大学院（講師以上）で年間平均2.0コマである。また，助教は，教授あるいは准教授の指導支援（学生の学習に関わる生活相談など）も行っていることが報告されている。

【先端融合工学専攻】

- 教授については，学部の授業担当科目数（平均）は4.9，卒業研究指導学生数（平均）は3.5，大学院の授業担当科目数（平均）は5.2，修士指導学生数（平均）は4.7，博士主任指導学生数（平均）は1.6である。
- 准教授については，学部の授業担当科目数（平均）は6.9，卒業研究指導学生数（平均）は3.0，大学院の授業担当科目数（平均）は4.6，修士指導学生数（平均）は4.0，博士主任指導学生数は0である。
- 助教は主に学部の実験指導を担当している。この他，助教は，教授あるいは准教授の指導支援（学生の学習および生活に関わる相談等）を行っている。

3.1.2. 教育改善に関する事項

教育改善に関し，工学系研究科各専攻の教員は，次のような取り組み，実践を行って

いる。

【数理学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- レポート・講義資料の Web ページを作り、授業で使用した資料を掲載した。（准教授）
- 高校数学からの橋渡しとなるよう、特に前半はゆっくりと講義が進展するように努めた。（准教授）
- 多くの学生から講義に関する質問があったので、それに応えた。また自分自身が一般企業の就職活動を行っていた経験があり、それを活かして進路指導も積極的に行った。（准教授）
- 授業科目のアンケート結果を参考にして、授業の改善に努めた。（教授）
- 先行シラバスを作成し、さらに、授業の進行に合わせて、随時シラバスを更新した。（准教授）
- チューター学生との面談を予定通り行った。オフィスアワーと関係なく、相談に来た学生と対応した。（准教授）
- 生保数理を主題とする講義を行った関連で、履修者へ日本アクチュアリー会主催のアクチュアリーセミナー（大阪）への参加を促したところ、1名が実際に参加した。翌週の講義内で、その状況について参加学生から他の履修学生向けに資料配布の上で報告をしてもらった。（教授）
- 定期試験の不合格者に対して、再試験を実施した。その結果の掲示において、目立った誤答を掲示し、「合否結果によらず、今後の学習では十分留意するように」と促した。（教授）
- 就職活動ができないままにいる学生に対して、キャリアセンター就職相談を利用させた。（教授）
- アクチュアリー試験に関する講義を行い、就職に向けた教育も行った。（准教授）

【物理科学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- 担当する全ての選択科目で LMS を活用している。（教授）
- テキストなど教材を作成し、学生に提供している。（教授）
- 原則として毎回演習を行い答案を回収、採点し、解答例を配布した。（教授）
- 授業時間外学習ができるように自作ホームページを制作した。（教授）

【知能情報システム学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- ティーチング・ポートフォリオに基づいて、教育の理念、方法を学生に説明（教授）
- 予習課題とそれに対応する小テストの実施（教授）
- TBL 型授業の実施（教授）
- 講義テキストの執筆・改定（教授）

- 成績データの分析と活用システムの整備（教授）
- LMS の活用（准教授）
- スライドと板書の併用を継続する中で、より板書の良さを生かす工夫（准教授）
- 大学院生への学会発表の義務化（准教授）

【循環物質化学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- プレゼンテーションにアニメーションを加えて、わかりやすくした。（教授）
- 基礎科目からの連携を図るために最初の数コマは1年次のテキストを用いた。（教授）
- プレゼンテーションを多用して、わかりやすくした。（教授）
- 正規の授業時間を確保すると共に適宜予習や復習のための課題を与えることにより定められた学習保証時間を実現した上で、レポートや試験に基づき厳格に評価した。（准教授）
- 前年度の内容と方法の問題点等について見直しを図った上で、単にやるべきことを指示するのではなく、受講生が自発的に考え、取り組めるように誘導することを心掛けると共に、これを実践した。（准教授）
- 章末問題の課題レポート提出と解答の解説（教授）
- 授業毎の課題レポート提出と解答の解説（教授）
- 単にやるべきことを指示するのではなく、受講生が自発的に考え、取り組めるように誘導することを心掛けると共に、これを実践した。（准教授）
- 課題問題と中間・期末試験の答案返却にともなう解答の解説を行った。（教授）

【機械システム工学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- JABEE の基準をベースとして担当した科目の授業を行い、その結果をFDレポートにまとめて報告した。
- 不合格者に対して面談を行ない、理解できていない点を指摘し、定期試験解答例を配布した。
- シラバスを公開して、授業計画を周知するとともに、科目と学習教育目標との対応関係を示した。
- 学生に達成度評価をフィードバックすることで、学生の学習意欲の向上に努めた。
- 昨年度の授業評価アンケート等で得られた改善内容を、本年度の講義にフィードバックするよう努めた。
- 学生による研究成果の報告をサポートし、国際会議等での発表を指導した。
- オフィスアワーを設け、学生からの学習・進路等の相談に応じた。
- 博士後期課程の学生を受け入れ、博士学生定員を充足するように努力した。
- Web 上に講義ノート、演習課題の模範解答を公開し、予習復習ができるようにした。
- TA の活用により、理解不足の学生に対する個別のフォローに努めている。

- 中間試験を実施し、自主学習を促進させている。
- 演習レポートにできるだけ詳細な添削を実施している。
- 演習レポートを毎回提出させることで、学習の習熟度を上げて行った。
- パワーポイントを効果的に使用するなど、学生の理解を深めるよう講義を工夫した
- 基礎的学問の内容が、社会（特に工学分野）で実際にどのように役立つかを意識づけるよう心掛けた。
- 卒業研究で配属された学生を対象に勉強会を開いて専門教育の充実を図った。

【電気電子工学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- 学生の予習や復習時間を確保させるために、課題をほぼ毎回実施した。（教授）
- 相互に授業参観することで、授業の改善を図る。（教授、准教授）
- 学科内の専門科目の一つである「電気回路B及び演習」のピア授業参観を実施し、講義の実施方法ならびに進め方に関するチェックを実施し、レポートを提出した。（准教授）
- 学科内の他の教員による「ピア授業参観」を受け、授業の進め方等のチェックを受けた。（准教授）
- 日頃、教員それぞれが工夫をして授業改善に努めているが、果して、それらが学生の教育に生かされているのか、独りよがりには陥っていないかなどはなかなか解りづらいものがある。そこで、同僚である教員の授業を参観して学生の反応を自分の目で観察し、自分の授業と比較することで、自分の授業の長所と改善点を明確にするものである。（准教授）
- 板書とプロジェクタを併用して講義を行うことで理解度の向上に努めた。また使用するスライドは毎回印刷し配布することで自主学習の促進を目指した。（准教授）
- 本年度の授業は教養の教室となったため、授業の録画を依頼し、学生が欠席した時や復習に役立つよう配慮した。（教授）
- 昨年度の試験問題を LiveCampus からダウンロードできるようにし、試験勉強に活用できるようにした。（教授）
- 再履修生および中間試験における成績不振者は教室前方に座るよう座席指定し、集中して授業を受けられるよう配慮した。（教授）
- 本年度より物理を受験科目に選択せずに入ってくる学生がいるため、学期始めに高校での理科の履修科目および受験科目に関するアンケートを実施した。これを用いて、受験科目と専門科目の成績の相関性について検討できるようにした。データは電気電子工学科関連教員で共有して活用している。（教授）
- 再履修生および中間試験の成績不振者は教室前方に座席指定した。（教授）
- 講義で使用するスライドを毎回印刷し配布することで、理解度の向上と自主学習の促進を目指した。（教授）
- ほぼ毎回演習問題を課し、授業時間中に終わらなかったものについては宿題として

取り組ませた。（教授）

- 教務委員として、電気電子工学科に在籍する学生の一覧表を作成し、進級状況、単位修得状況、休学状況、担当チュータまたは担任、講義の欠席状況が一目で分かるようにし、学科主任等関係委員で情報共有した。（准教授）
- 指導している修士学生5名に、応用物理学会全国大会2件、応用物理学会九州支部大会3件、電気学会九州支部2件の発表をさせた。（准教授）
- 本年度より、化学での受験を認めており、化学受験者の成績動向を見守る必要があるため、高校での理科の履修状況、受験勉強の状況、センター試験・個別試験の受験科目について調査し、学科内で情報共有を行った。（教授）

【都市工学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- 受講生に対し講義ごとの質問票あるいはミニテストの実施とチェック（教授、准教授）
- 再試験の受験者には、事前の自習を要求している（教授、准教授）
- 大学院生には学外での研究発表を義務化、発表の事例（教授、准教授）
- 学生による授業評価を通じて得られた諸問題に対する教育法の改善（教授、准教授）
- 技術士1次試験の過去問を講義に活用し、技術士1次試験合格者を増やす努力を行っている。（教授、准教授）
- 3年生後学期の演習内容を総合的に見直した「演習ユニット」の来年度本格実施に向けて、検討を行っている。（教授、准教授）
- 建築士の過去問を講義の小テストとして活用し、卒業後の建築士受験に対する指導を行っている（教授、准教授）。

【先端融合工学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- 演習問題を先に提示しておくことで、予習のモチベーションを向上させた。（教授）
- 講義を完結させるのではなく、解決すべき問題を提示し、講義終了後質問に来た学生とのディスカッションを通して理解を深めるよう試みた。（教授）
- 科目を受講すると、どのような資格取得へ結びつくのか、具体的に提示した。（教授）
- 学部授業参観を実施した。（教授、助教）
- 講義での板書を pdf 化し、リアルタイムで配信した。（教授）
- 講義や実験の資料を印刷し配布した。（教授、准教授、助教）
- 英語での授業を行った。（教授、准教授）

3.1.3. 教育研修・FDに関する事項

教育研修・FDについて、工学系研究科各専攻の教員は次の活動を行っている。

【数理学専攻】

専攻内でのFD活動の他、

- 工学系研究科サバティカル研修報告（准教授）

- ・ 高等学校数学教員との交流会（教授）
- ・ 数学研究交流会（教授）

への参加が報告されていた。

【物理科学専攻】

専攻内での FD 活動の他、

- ・ ほぼ全員が（簡易版）ティーチングポートフォリオを作成した。

授業改善や実質化の取り組みとしては、

- ・ 授業評価で、「内容が理解しにくい」という授業評価の結果が出たので、学生の質問を取りまとめ、回答をスライドショーにして授業開始前に上映し、また PDF ファイルを LiveCampus で提供して、理解を深める努力を行った。（教授）
- ・ LMS において演習問題の出題だけでなく、毎週の自主学習の指示や、次回の予告などゴーイングシラバスの内容を記載した。（教授）
- ・ 授業評価の結果から、実験の新規題材を教材した。（准教授）
- ・ シラバスに自習課題を記載している。さらに、原則として毎回演習を行い、答案を回収、採点、返却し、解答例を配布している。（教授）

などが報告されていた。

以上のように、各教員が、授業科目の特性に合わせて、教育方法や教材などを工夫していることがわかる。

【知能情報システム学専攻】

専攻外での FD 活動として

- ・ ティーチングポートフォリオワークショップ講師（教授）
- ・ ティーチングポートフォリオ・ミニワークショップ（助教）
- ・ ティーチングポートフォリオ作成ワークショップ参加（助教）
- ・ 認証評価に関する研修（教授）
- ・ 教育の質保証研修（教授）

があった。また、専攻内での FD 活動としては、

- ・ 開講前、閉講後点検及びそれに基づく議論（教授、准教授）
- ・ 学生アンケートの分析及びそれに基づく議論（准教授）

が継続して行われた。

【循環物質化学専攻】

専攻内での教育プログラム委員会及び教育FD委員会による、授業改善について議論や教員個人の FD 活動の他、

- ・ 工学系研究科 FD 報告会（教授、准教授）
- ・ ティーチング・ポートフォリオミニワークショップ(准教授)
- ・ 平成 26 年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会（第 9 回）（教授）
- ・ 第 36 回九州大学教育改革研究会（教授）
- ・ 第 13 回大学改革シンポジウム『大学の入試改革について』（教授）

- ・ エコアクション 21 環境報告書報告会（教授，准教授）
- ・ サバティカル研修報告（教授，准教授）
- ・ 薬品管理システム CRIS 講習会（教授，准教授，助教）

への参加が報告されていた。

【機械システム工学専攻】

専攻・学科内での FD 活動の他，

- ・ 専攻・学科内に設置した教務・JABEE グループによる JABEE 基準適合対応，学部および大学院の教務関連事項の検討
- ・ 学部 FD 講演会への参加

などが報告されていた。

【電気電子工学専攻】

専攻内での FD 活動の他に，

- ・ 工学系研究科 FD 報告会（教授，准教授，講師）
- ・ 佐賀大学本庄地区ティーチング・ポートフォリオ・ミニワークショップ（教授，講師）

への参加が報告されていた。

【都市工学専攻】

専攻内での FD 活動の他，

- ・ 工学系研究科 FD 報告会（教授，准教授）
- ・ 情報処理教育の現状（教授・准教授）
- ・ 佐賀大学スキルアップセミナー（准教授）

への参加が報告されていた。

【先端融合工学専攻】

学科・専攻内での FD 活動の他，

- ・ 工学系研究科 FD 講演会への参加（教授，准教授）
- ・ 工学系研究科サバティカル研修報告会での講演（准教授）
- ・ TP ワークショップへの参加（教授，准教授）

への参加が報告されていた。

3.1.4. オフィスアワーの設置と学生相談に関する事項

オフィスアワーの設置と学生の訪問については，工学系研究科内の全ての教員が行っている。専攻ごとの相談内容については，以下のとおりである。

【数理科学専攻】

- ・ 相談内容は学習方法や将来の進路に関するものが多い。（教授，准教授）

【物理科学専攻】

- ・ 悩みを抱える学生の情報を教員間で共有し，できるだけ学生と面接するなど，留年率を下げるための努力を学科全体で取り組んでいる。
- ・ 就職関係で不明者が出ないように努力した。

【知能情報システム学専攻】

- ・ オフィスアワーを講義直後に設定し、学生訪問を促進（教授）
- ・ レポートの書き方などに関する相談があった（教授）
- ・ 講義内容（答案方法、記号の説明）に関する相談があった（教授）
- ・ 進路（職種、キャリアビジョン）に関する相談があった（教授）

【循環物質化学専攻】

- ・ オフィスアワーは全教員が設定しており、学生の訪問に対応している。
- ・ オフィスアワー以外の時間においても、教員は学生の訪問・相談に適宜対応している。
- ・ 学生からのメールによる相談についても対応している。
- ・ 毎学期毎に全学生に対し、チューター面談を実施している。
- ・ 1年生および2年生については、ラーニング・ポートフォリオを活用したチューター指導を実施している。
- ・ 学生の訪問・相談は、専攻主任や教務委員、教育プログラム委員長、就職担当教員などに対するものが多い。
- ・ 相談内容は、授業に関する質問が最も多く、その他履修上の相談や就職に関する相談・報告、進路等の相談など多岐にわたる。

【機械システム工学専攻】

- ・ 相談内容は学修相談と就職・進路相談が各々全体の半数ずつで、それ以外には生活相談を実施している。

【電気電子工学専攻】

- ・ 相談内容は学習や進路相談に関するものが多い。（教授、准教授）
- ・ 学生相談はオフィスアワー以外での実施が多い。（教授、准教授）

【都市工学専攻】

- ・ 相談内容は授業の履修方法、資格試験、就活に関するものが多い。（教授、准教授）
- ・ 留学生の日常生活についても相談にのっている。（教授、准教授）

【先端融合工学専攻】

- ・ オフィスアワー以外の面談が多いが、適切に対応している。電子メールによる相談にも対応している。内容は教務事項および就職相談が多い。

3.1.5. 学生の受賞等

【知能情報システム学専攻】

- ・ Best Student Paper Award, Information Technology Next Generation: ITNG Conference 2014（指導教員：教授）

【循環物質化学専攻】

- ・ 日本素材物性学会山崎賞（指導教員：教授、准教授）

【機械システム工学専攻】

- ・ 日本機械学会 畠山賞
- ・ 日本機械学会 三浦賞
- ・ 日本設計工学会 武藤栄次賞
- ・ 日本冷凍空調学会年次大会 優秀講演賞
- ・ 第 33 回計測自動制御学会九州支部学術講演会学生発表交流会 優秀発表賞

【電気電子工学専攻】

- ・ 電気学会九州支部長賞 (指導教員：教授)
- ・ 電子情報通信学会九州支部 学術奨励賞 (指導教員：教授)
- ・ APMC2014 Student Design Competitions 3rd Prize (指導教員：教授)
- ・ ローデ・シュワルツ レポートコンテスト入賞 (指導教員：教授)
- ・ 2014 年 IEEE 福岡支部 発表奨励賞 (第 4 回) (指導教員：教授)
- ・ 映像情報メディア学会 放送技術研究会学生発表部門 最優秀賞 (指導教員：教授)
- ・ 2014 年 IEEE 福岡支部 発表奨励賞 (第 4 回) (指導教員：教授)
- ・ 日本知能情報ファジィ学会ソフトサイエンス研究部会 ベストプレゼンテーション賞 (指導教員：准教授)

【都市工学専攻】

- ・ 平成 26 年度土木学会西部支部研究発表会優秀講演賞 学部生 1 名, 院生 1 名
- ・ 平成 26 年度日本コンクリート工学会九州支部長賞 学部生 1 名, 院生 1 名
- ・ 平成 26 年度地盤工学会九州支部優良学生賞 院生 2 名
- ・ 平成 26 年度都市住宅学会九州支部優秀学生賞 修士論文部門優秀賞 院生 1 名
- ・ 平成 26 年度日本建築学会設計競技九州支部入選 院生 2 組
- ・ 平成 26 年度空気調和・衛生工学会九州支部長賞 院生 1 名
- ・ 空気調和・衛生工学会第 29 回振興賞学生賞 学部生 1 名
- ・ 平成 26 年度都市住宅学会九州支部優秀学生賞卒業論文部門優秀賞 学部生 1 名
- ・ 平成 26 年度日本都市計画学会九州支部長賞 学部生 1 名
- ・ 平成 26 年度日本建築学会九州支部長賞 学部生 1 名
- ・ 学内の賞 平成 26 年度修士論文審査会優秀発表賞 院生 5 名
卒業論文審査会優秀発表賞 学部生 12 名
卒業制作丹羽賞 最優秀賞 1 名, 優秀賞 1 名, 敢闘賞 2 名

【先端融合工学専攻】

- ・ 2014 年度 IEEE Instrumentation & Measurement Society Japan Chapter Student Award (指導教員：准教授)
- ・ Best Presentation Award (若手プレゼンテーション賞) (指導教員：准教授)
- ・ 日本機械学会 三浦賞 (指導教員：准教授)

3.2. 研究の領域

3.2.1. 著書，論文等の発表実績

過去5年間（H22〔2010〕.4.1～H27〔2015〕.3.31）の発著書，論文等の発表実績を表3.2に示す。

表 3.2 過去5年間（H22.4.1～H27.3.31）の発著書，論文等の発表実績平均値

専攻	職 種	著書	論文総数		和文原著		英文原著	
				査読付		査読付		査読付
数理科学専攻	教 授	0	9.33	8.50	1	0.17	8.33	8.33
	准教授 (含講師)	0	2.50	2.50	0	0	2.50	2.50
物理科学専攻	教 授	0.17	11.83	11.17	0.33	0.00	11.50	11.17
	准教授	0.17	12.83	12.33	0.17	0.00	12.67	12.33
知能情報 システム学専攻	教 授	1.25	13.75	10.88	4.5	2.5	9.25	8.38
	准教授 (含講師)	0.8	37.2	15	19.4	3.2	12.6	11.8
	助 教	0	3.33	3.33	1.33	1.33	2	2
循環物質化学 専攻	教 授	1.00	16.30	15.40	0.60	0.30	15.70	15.10
	准教授	1.14	17.14	15.43	2.86	1.43	14.29	14.00
	助 教	0.50	7.75	7.75	0.25	0.25	7.50	7.50
機械システム 工学専攻	教 授	1.29	22.00	20.00	2.71	2.43	19.57	17.57
	准教授 (含講師)	0.44	13.11	10.89	3.44	3.00	9.67	7.89
	助 教	0.00	20.67	5.67	13.67	2.67	7.00	3.00
電気電子工学 専攻	教 授	1.67	18.5	18.5	2.0	2.0	16.5	16.5
	准教授 (含講師)	0.5	24.38	13.75	13.25	2.63	11.13	11.13
	助 教	0.0	6.0	6.0	1.0	1.0	5.0	5.0
都市工学専攻	教 授	0.67	34.78	21.56	15.44	4.78	18.44	16.78
	准教授 (含講師)	0.38	20.25	8.00	14.88	3.00	5.38	5.00
	助 教	0.00	16.00	7.50	11.50	3.50	4.50	4.00
先端融合工学 専攻	教 授	1.7	28.3	24.5	5.0	1.3	23.1	23.0
	准教授	0.4	21.4	20.6	2.0	1.6	19.4	19.4
	助 教	0.0	7.3	7.3	2.7	2.7	4.7	4.7

【数理学専攻】

本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授の研究活動は、かなり良好である。
- 准教授の研究活動は、概ね良好である。

【物理学専攻】

本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授の研究活動は概ね高い水準にある。
- 准教授の研究活動は特に高いアクティビティを示している。

【知能情報システム学専攻】

本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授、准教授は、活発に研究活動が行われていることが分かる。
- 助教については、活発に研究活動を行っている者と、そうでない者に分化している。

【循環物質化学専攻】

本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授の研究活動は非常に良好であり、5年間に一人平均 15.40 編の査読付き論文を報告している。
- 准教授の研究活動は非常に良好であり、5年間に一人平均 15.43 編の査読付き論文を報告している。
- 助教の研究活動は良好であり、5年間に一人平均 7.75 編の査読付き論文を報告している。

いずれの教員とも、主として査読付き英文論文を報告しており、国際的水準にある研究活動を行っている判断される。また、昨年度に比べ、教授は約 3 編、准教授は 4 編弱発表実績が増加している。平成 26 年度の研究活動が活発であったことを窺わせる。今後、特定の教員だけが実績を伸ばすのではなく、専攻全体での研究の活性化と研究の質のボトムアップが必要である。

【機械システム工学専攻】

本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授、准教授・講師、助教ともに概ね良好な研究活動が行われていると評価できる。

【電気電子工学専攻】

本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授の研究活動は・・・博士後期課程学生の博士号認定資格を維持している。
- 准教授の研究活動は・・・博士前期課程学生の修士号認定資格を維持している。
- 助教の研究活動は・・・博士前期課程学生の指導資格を概ね維持している。

【都市工学専攻】

本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授の研究活動は、昨年度と同様に、著書や査読付き論文で大きな成果を挙げている。ただし、論文数では個人差が大きく、指導する博士後期課程学生数が多い教員に査読付き論文数が集中している。
- 准教授の研究活動は、和文の論文数で教授と同じくらいであるが、英文論文数が少ない。また、論文数では個人差が大きい。
- 助教の研究活動は、論文総数は教授・准教授に比べ少ないが、査読付き論文は准教授・講師を上回っている。しかし、2人の成果には極端な個人差がある。

【先端融合工学専攻】

本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授は5年間で平均 24.5 件の査読付き論文を発表している。
- 准教授は5年間で平均 20.6 件の査読付き論文を発表している。
- 助教は5年間で平均 7.3 件の査読付き論文を発表している。

3.2.2. 共同研究などに関する活動実績

【数理学専攻】

- 統計数理研究所の公募型共同利用（教授）
- 他大学の研究者との共同研究（教授，准教授）

【物理学専攻】

- 九州大学や広島大学との共同研究を発展させた。（教授）
- 佐賀大シンクロトロン，理化学研究所，弘前大学，九州大学，熊本大学等と共同研究を行った。（准教授）

【知能情報システム学専攻】

- 国内他大学（九州大学，神戸大学，愛知教育大学，東京工業大学，名古屋工業大学，名古屋大学，名城大学，大阪大学，高エネルギー加速器研究機構）との共同研究（教授，准教授）
- 長崎県との共同研究（教授）
- 文化教育学部との共同研究（准教授）
- 総合情報基盤センターとの共同研究（教授）

【循環物質化学専攻】

- 科学研究費補助金に新規・継続合わせて8件が採択された（教授，准教授，助教）
- 市・県，財団法人，民間企業，大学との共同研究を13件受け入れた（教授，准教授）
- 市・県，財団法人，民間企業からの受託研究を8件受け入れた（教授，准教授，助教）
- 環境省の外部資金を獲得（教授）
- 平成26年度工学系研究科長経費研究活性化事業に専攻より1件継続採択された（教授，准教授，助教）
- 東京理科大学薬学部，香川大学医学部との共同研究（教授）
- 東京理科大学薬学部，筑波大学人間科学研究科（教授）

- 九州大学大学院理学研究府との共同研究（教授）
- 九州大学，鈴鹿高専との共同研究（教授）
- 千葉大学大学院融合科学研究科との共同研究（教授）
- 琉球大学理学部との共同研究（教授）
- 島根大学教育学部，総合理工学部との共同研究（教授）
- 兵庫県立大学との共同研究（教授）
- 関西学院大学との共同研究（教授）
- 久留米大医学部との共同研究（准教授）
- 立命館大学理工学部との共同研究（教授）
- 北海道大学，豊橋技術科学大学，名古屋工業大学，松山大学との共同研究（准教授）
- 韓国・高神大学教員との共同研究（教授）
- カナダ・Wilfrid Laurie University との共同研究（教授）
- インドネシア・ガジャマダ大学教員との共同研究（教授）
- イギリス Glyndwr 大学との共同研究（准教授）
- ポーランド Jagiellonian University との共同研究（准教授）
- 米国 Oklahoma State University との共同研究（准教授）
- 米国ペンシルベニア州立大学との共同研究（准教授）
- 独立行政法人産業技術総合研究所との共同研究（教授，准教授，助教）
- 原子力研究開発機構との共同研究
- 物質材料研究機構との共同研究
- その他営利・非営利団体との多数の共同研究（教授，准教授，助教）
- 電力中央研究所 海洋エネルギー研究センター（准教授）
- 理研 SPring-8 との共同研究（教授）

【機械システム工学専攻】

- 乱れ促進体を用いたプレート式熱交換器の相変化を伴う伝熱促進と圧力損失低減
- 極少量の水を含むアンモニアの気液平衡特性と溝付管内蒸発熱伝達の実験
- 海洋深層水吐出口流の海洋表層への影響に関する基礎研究
- 増圧操作とくぼみ付き流路幾何パラメータの関係についての研究
- 螺旋板型アンモニア蒸発器に関する研究
- 多結晶マグネシウム合金の疲労破面とき裂進展経路
- 集合組織を有する多結晶マグネシウム合金の疲労き裂進展挙動の解明
- 特異な集合組織多結晶マグネシウム合金のき裂先端特異応力場での破壊機構の解明
- 水素吸蔵合金容器における伝熱および水素吸蔵特性の解析
- 高効率ノンフロン型空調機器技術の開発
- 高剛性油の高圧物性測定評価研究
- 潤滑油の高圧物性に関する研究
- 液体の高圧物性に関する研究

- ボトリオコックス抽出オイルの潤滑油性能に関する研究 など

【電気電子工学専攻】

- 機能性薄膜材料ターゲット有効利用のためのスパッタプラズマ装置の開発
- 高不整合材料を用いた太陽電池に関する研究
- 溶液成長による高性能ケステライト太陽電池の開発
- 単電子デバイスの高周波特性に関する研究

【都市工学専攻】

- 日本学術振興会二国間交流事業による中国との共同セミナー（教授）
- 日本学術振興会二国間交流事業による韓国との共同研究（教授）
- 科学研究費基盤研究による避難所雑魚寝の健康被害防止指標の研究（教授）

【先端融合工学専攻】

- 学内共同研究（教授，准教授）
- 海外の大学との共同研究（教授，准教授）
- 国内他大学との共同研究（教授，准教授）
- 民間企業との共同研究（教授，准教授）
- 独立行政法人や公的研究機関との共同研究（教授）
- 企業からの委託研究（教授，准教授）
- 工学系研究科長経費によるプロジェクト研究（教授，准教授）
- 学長経費によるプロジェクト研究（教授）

3.2.3. 受賞等の実績

【知能情報システム学専攻】

- Track Organizing Award, Information Technology Next Generation: ITNG Conference 2014（教授）
- 情報処理学会高度交通システム研究会情報処理学会高度交通システム研究会優秀論文賞（准教授）

【循環物質化学専攻】

- 日本素材物性学会山崎賞（教授，准教授）
- 高分子学会 フェローアカデミア（レビュースカラー）（教授）
- 日本吸着学会奨励賞（カルゴンカーボンジャパン賞）（准教授）

【機械システム工学専攻】

- 2014 International Conference on Advanced Mechatronic Systems Best Paper Award
- Best Paper Award, OPTICS2014
- 日本機械学会計算力学部門業績賞

【都市工学専攻】

- 平戸市文化功労賞（教授）

3.3. 国際・社会貢献の領域

3.3.1. 国際交流実績

【数理科学専攻】

- 国際研究集会での講演（教授，准教授）
- 国外の研究者との共同研究（教授）

【物理学専攻】

- 国際パートナーシップのプログラムを開催した。（教授，准教授）
- 海外の一流雑誌の査読委員を務めた。（教授，准教授）

【知能情報システム学専攻】

- 佐賀大学大学院戦略的国際人材育成プログラム留学生受け入れ（教授）
- 国際パートナーシッププログラムを通じた国際交流（教授）
- 韓国との二国間交流事業への参画（教授）

【循環物質化学専攻】

- 中国遼寧大学との国際パートナーシッププログラムの主催および講師（教授，准教授）
- 大邱大学とのジョイントセミナー講師（准教授）
- 交流協定校からの修士論文論と博士論文審査（教授）
- European Molecular Liquids Group and Japanese Molecular Liquids Group, Secretary（教授）
- 国際イオン交換学会編集委員（教授）
- University of Lille 1 (France)における博士論文審査（教授）
- その他国際学会での招待講演や発表（教授，准教授）

【機械システム工学専攻】

- 国際学会の Committee
- 国際会議開会の運営委員，実行委員など
- International Journal の Editor
- 海外からの研究者の受け入れ
- 留学生の受け入れ
- 国際会議における招待講演
- 国際会議における発表等
- 外国語によるHPの開設

【電気電子工学専攻】

- 英語のホームページの開設と更新（教授）
- ABE プロジェクトの留学生受け入れ（教授）

【都市工学専攻】

- 環アジア国際セミナー [日・韓・タイ・カザフ]（教授・准教授）
- タイにおける国際ワークショップへの参加（教授・准教授）

- 韓国における国際ワークショップへの参加（准教授）
- 工学系研究科海外調査（教授・准教授・講師）
- 外国人研究員の受け入れ（教授・准教授）
- 英語ホームページの開設（教授）

【先端融合工学専攻】

- 英語によるホームページ開設（教授，准教授）
- 工学系研究科の国際的交流事業に協力（准教授）
- 中国武漢大学との教育・学術交流（講義等）（教授）
- 韓国大邱大学校との教育・学術交流（講義等）（教授，准教授）
- 戦略的国際人材育成プログラムによる学生の受入（教授）

3.3.2. 社会貢献実績

【数理学専攻】

- 論文誌査読委員（教授，准教授）
- 日本数学会での座長，研究集会の開催（教授，准教授）
- 高等学校数学教員との交流会（教授）
- ジョイントセミナー講師（教授）
- 致遠館高校 SSH 事業理系ガイダンス講座講師（教授）
- 国立22大学法人数学系教室懇談会幹事校担当（教授）
- SPACE-J 留学生担当（教授）
- 科目等履修生(社会人)の教職関係書類記入（教授）

【物理科学専攻】

- 学会論文査読委員（教授，准教授）
 - 中学校の講演会の講師を務めた。（教授）
 - 佐賀県高等学校理科部会で講演を行った。（教授）
 - 筑波大学のアドバイザー委員を務めた。（准教授）
 - 九州大学のアドバイザー委員を務めた。（教授）
 - 全国 SSH 生徒発表会の講評者を務めた。（教授）
 - 致遠館 SSH の講師を務めた。（准教授）
 - SSH 運営指導委員会の委員を務めた。（教授）
 - ジョイントセミナーの講師を務めた。（教授，准教授）
 - 佐賀大学 SL センターと共同研究を行った。（准教授）
- などのように各教員とも社会に貢献している。学会論文査読委員（教授，准教授）

【知能情報システム学専攻】

- 学会内委員（教授）
- 学会企画（准教授）
- ジョイントセミナー（教授）

- 外部セミナー講師（教授）
- 佐賀県審議会委員（教授）
- 他県審議会委員（教授）
- 佐賀県に対するアドバイザー（准教授）
- 協議会等運営委員，部会委員（教授）
- 国立研究所事業運営委員（教授）

【循環物質化学専攻】

- 学会論文査読委員（教授，准教授，助教）
- 学会論文誌編集委員（教授）
- 学会支部幹事（教授，准教授）
- 学会代議員（教授）
- 学会分科会代表（教授）
- 学振 155 委員会委員（教授）
- 国際学会運営委員（教授）
- 国内学会開催の実行委員，運営委員など（教授，准教授，助教）
- 佐賀県，佐賀市，小城市，鹿島市，鳥栖市の環境審議会委員および委員長（教授）
- 佐賀県理科・化学教育研究発表会実行委員・講師（教授，准教授）
- 高校化学グランプリ佐賀地区予選実行責任者（教授）
- SAGA わくわく祭（さい）エンス 2014 ブース担当（教授，准教授，助教）
- 高度人材育成キャリア講演会(教授)
- 高大連携活動の新しい展開—学生が企画する大学生と高校生の交流企画（ワールドカフェ）—指導者（教授）
- JABEE 外部評価委員（教授）
- 佐賀県高等学校教育研究会理科部会大会講師（教授）
- 高等学校進路説明会講師（教授）
- ジョイントセミナー講師（教授，准教授，助教）
- SSH 高大接続交流会講師（准教授）
- 産学官連絡会議委員（教授）
- 佐賀科学少年団役員（准教授）
- 日本素材物性学会編集委員（教授）
- 九州溶液化学懇談会事務局（教授）
- 日本分析化学会九州支部常任幹事（教授）
- 日本分析化学会「ぶんせき」誌編集委員（教授）
- 第 37 回溶液化学シンポジウム実行委員長（教授）
- 化学の目で見る身近な最先端科学と技術（教授）
- 高大連携プログラム「教師へのとびら」（教授）
- 平成 26 年度佐賀大学公開講座「化学の目で見る身近な最先端科学と技術」（教授）

【機械システム工学専攻】

- 学会理事
- 学会常務理事
- 学会評議員
- 学会校閲委員，編集委員，運営委員
- 学会九州支部理事，評議員，商議員，常議員など
- 研究会会長，幹事など
- 学会開催の実行委員，運営委員など
- ジョイントセミナー
- スーパーサイエンスハイスクールの講師
- 佐賀大学ものづくり技術者講座育成講座
- オープンラボ

【電気電子工学専攻】

- 学会論文査読委員（教授，准教授）
- APCC2015 の TPC 委員（教授）
- 国際学会 MWE2014 実行委員会・財務副委員長（教授）
- 学会論文誌編集委員（教授）
- 学会研究会幹事（教授）
- 電子情報通信学会九州支部主催の子供の科学教室 報告責任者（教授）
- ジョイントセミナー（教授，准教授）
- 学会開催の実行委員，運営委員など（准教授）
- 佐賀大学文化教育学部附属中学校向け「佐賀大学の先生の授業を受けてみよう」実施（教授）
- 致遠館高校主催 致遠館高校 SSH 大学研修 2 実施（教授）

【都市工学専攻】

- 学会論文査読委員（教授，准教授，講師）
- 学会論文誌編集委員（教授）
- 学会研究会幹事（教授，准教授）
- 佐賀県主催の協議会等の幹事，運営委員など（教授，准教授）
- ジョイントセミナー（教授，准教授）
- 学会開催の実行委員，運営委員など（教授，准教授）
- 科目等履修生の受入（教授）
- 公開講座（佐賀学のススメ）（教授）
- 受託研究（教授）
- 研究・技術指導（教授）

【先端融合工学専攻】

- 学研究会の会長，役員，運営委員，幹事，委員など（教授，准教授）

- 学会論文誌編集委員（教授，准教授）
- 学会論文査読委員（教授，准教授）
- 科学研究費補助金審査員（教授）
- 佐賀県の審議会等の委員（教授）
- 佐賀県センターの評価委員（准教授）
- 地域企業からの技術相談（教授，准教授）
- ものづくり技術者養成講座講師（教授，准教授）
- 工学系地域コンソーシアム参加（教授，准教授）
- 工業教育活性化セミナー講師（教授）
- 県内企業との研究会結成（准教授）
- 工業教育活性化セミナー講師（教授）
- スーパーサイエンスハイスクール事業講師（教授）
- 県内高専の非常勤講師（准教授）

3.4. 組織運営の領域

【数理学専攻】

- 工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- 全学各種委員の担当（教授）
- 省エネ，省資源などの活動に積極的に参加（教授，准教授）

【物理学専攻】

- 研究科長補佐や工学系研究科各種委員の担当（教授，准教授）
- 学科内の各種委員の担当（教授，准教授）
- 全学機構の部会長（教授）

など，学内及び研究科等の運営において重要な役割を果たしている。

【知能情報システム学専攻】

- 工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- 全学委員会委員（教授）
- 全学教育機構併任（教授）
- 法人業務（室）への参画（教授）

【循環物質化学専攻】

- 全学及び工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- アドミッションセンター長（教授）
- 教養教育運営機構副機構長（教授）
- 全学教育機構副機構長・高等教育開発室長（教授）
- 大学教育委員会副委員長（教授）
- 大学教育委員会企画・評価専門委員会委員長（教授）
- 知財戦略・技術移転部門長（教授）
- 工学系研究科副研究科長（教授）
- 工学系研究科連携大学院運営委員会委員長（教授）
- 工学系研究科学生委員長（教授）
- 工学系研究科安全委員会委員長（教授）
- 省エネ，省資源などの活動に積極的に参加（教授，准教授，助教）

など，全学センター長，各種全学委員会委員長や工学系研究科委員会委員長として，組織運営に大きく貢献している。

【機械システム工学専攻】

- 工学系研究科・理工学部各種委員の担当（全教員）
- 各種全学委員会委員
- 省エネ，省資源などの活動に積極的に参加（全教員）
- 後援会協賛のOB懇談会開催

【電気電子工学専攻】

- 工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- 省エネ，省資源などの活動に積極的に参加（全教員）
- 各種全学委員の担当（教授，准教授）
- キャリアセンター長（教授）

【都市工学専攻】

- 工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- 省エネ，省資源などの活動に積極的に参加（准教授，助教）

【先端融合工学専攻】

- 全学および工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- 省エネ，省資源などの活動に積極的に参加（全教員）

4. 教員の総合的活動状況評価の集計・分析と自己点検評価

4.1. 各領域における自己点検評価点ならびに達成度

教員の総合的活動状況として、教員個人から自己点検された評価の各領域における評価点ならびに達成度の最小値と最大値をそれぞれの専攻の教授、准教授、講師、助教について整理したものが下記の表 4.1 である。

表 4.1 教員自身による自己点検評価（評価点ならびに達成率）

専攻	職種	教育の領域		研究の領域		国際貢献・社会貢献の領域		組織運営の領域		総合評価
		評価点	達成率	評価点	達成率	評価点	達成率	評価点	達成率	
数理科学専攻	教授	3-4	70-85	3-5	60-90	3-4	60-80	3-5	60-95	3-4
	准教授 (含講師)	3-4	70-90	2-4	30-80	1-4	0-80	3-5	60-100	2-4
物理科学専攻	教授	3-4	70-90	3-4	65-90	3-5	70-90	3-3	65-90	3-3
	准教授	3-4	70-90	3-4	60-90	3-4	60-90	3-4	60-90	3-4
知能情報 システム学 専攻	教授	3-5	65-100	4-5	80-100	3-5	70-100	4-5	80-100	3-5
	准教授 (含講師)	4-5	80-100	4-5	80-100	4-5	80-100	3-5	60-100	4-5
	助教	3-4	90-100	3-5	50-100	3-4	10-80	3-5	80-100	3-4
循環物質化学 専攻	教授	3-5	60-100	3-5	60-100	4-5	70-100	3-5	60-100	3-5
	准教授	4-5	80-95	3-5	75-100	4-5	80-100	3-5	80-100	4-5
	助教	4-4	70-80	3-5	50-100	3-5	50-100	4-5	80-90	4-4
機械システム 工学専攻	教授	4-5	80-100	4-5	80-100	4-5	80-100	4-5	80-100	4-5
	准教授 (含講師)	3-5	70-100	3-5	70-100	3-5	70-100	3-5	70-100	3-5
	助教	3-4	70-100	3-5	70-100	3-4	70-100	3-4	80-100	3-4
電気電子工学 専攻	教授	4-5	80-98	4-5	80-98	4-5	80-98	3-5	75-98	4-5
	准教授 (含講師)	4-5	75-95	3-5	60-95	3-5	60-98	4-5	70-95	3-5
	助教	3-4	70-80	3-4	70-80	5-5	95-98	4-5	75-95	4-4
都市工学専攻	教授	3-5	60-100	3-5	60-100	2-5	50-100	4-5	80-100	3-5
	准教授 (含講師)	3-5	50-90	3-5	50-100	2-5	50-100	2-5	30-100	3-5
	助教	3-4	70-70	2-4	40-75	3-4	60-70	3-3	60-80	3-3
先端融合工学 専攻	教授	2-5	40-100	2-5	40-100	2-5	40-100	2-5	40-100	2-5
	准教授	4-5	70-95	3-5	70-90	3-5	75-95	4-5	70-100	3-4
	助教	4-5	80-100	4-4	80-90	3-4	20-80	3-5	70-100	3-4

表中、例えば、(3-4)は評価点、達成率の（最小数3-最大数4）を表す。

一部の専攻において助教の人数が少ないため、助教のデータは割愛した。

【数理科学専攻】

この表から、各教員は公正な自己評価を行っていると思われる。

【物理科学専攻】

この表から、各教員は概ね適切な自己評価を行っていると思われる。

【知能情報システム学専攻】

この表から、各教員は適正な自己評価を行っていると思われる。

【循環物質化学専攻】

この表から、達成率は適切に実績を反映していると思われ、各教員は高いレベルでほぼ目標を達成していると分析される。しかしながら評価点の方は、目標設定の統一基準がないため実際の業績に見合わない控えめな自己評価が多く、評価点から有意義な結論を導くのは困難である。

【機械システム工学専攻】

この表から、ほとんどの教員においてはそれぞれの職分を考慮した適格な自己評価を行っていると思われる。一方で、一部の教員については本学および本学部の目標達成に向けた活動という観点から判断して自己総合評価が若干低いように思われる。実際より控えめの自己評価を行っているとも推察できるが、より高い達成率・総合評価を目指すよう努めたい。

【電気電子工学専攻】

この表から、各教員は概ね良好な自己評価を行っていると思われるが、頑張っている人の自己評価が低いのが気になる。さらに、目標設定が達成可能なものに限定しており、自己評価がかなり甘い教員もいる。

【都市工学専攻】

この表から、各教員は厳格な自己評価を行っていると思われる。一方で、目標に対する達成度が著しく低い教員もおり、今後の活動の改善が必要である。

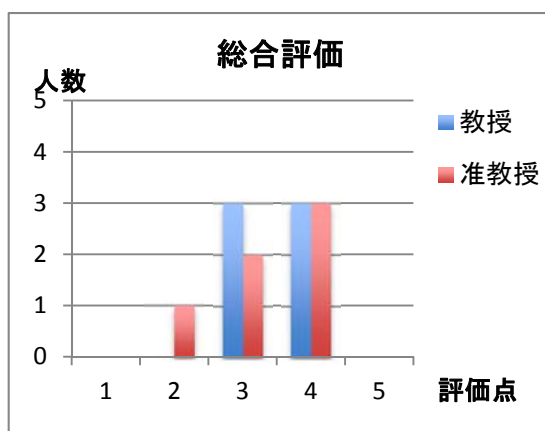
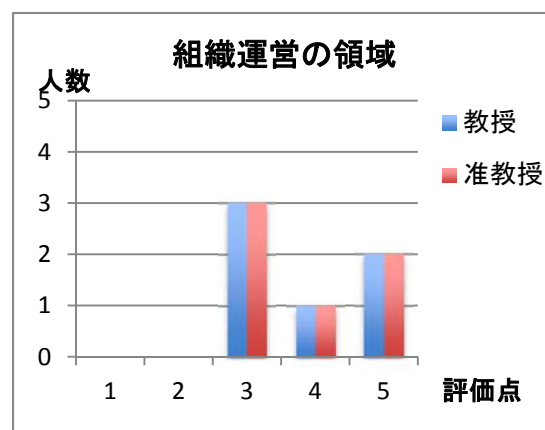
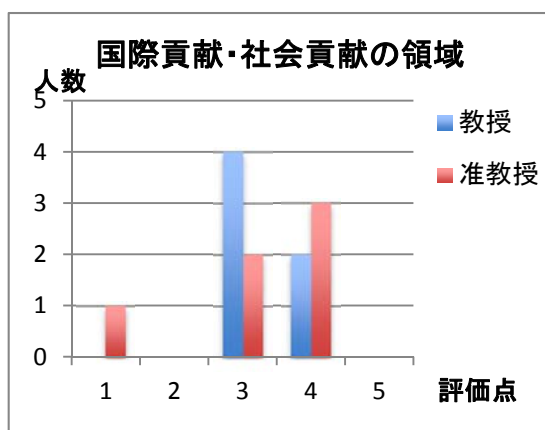
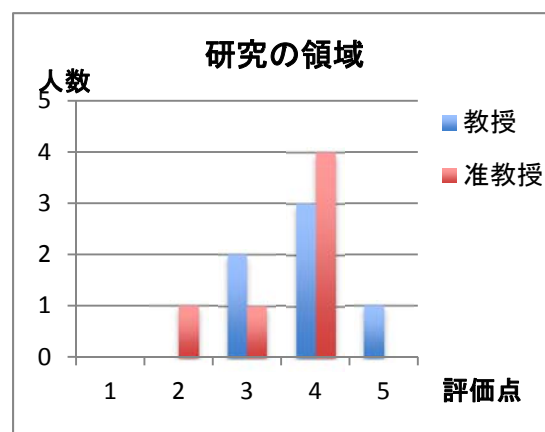
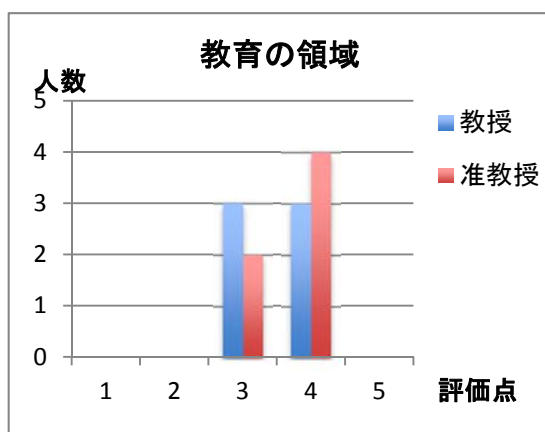
【先端融合工学専攻】

各領域の評価点は2 - 5の範囲にわたり、各教員は概ね適切な自己評価を行っていると思われる。また、総合評価の評価点の平均値は3.9、CVは0.2であり、各自の設定した目標は概ね良好に達成されていると判断した。総合評価の評点が、教授>准教授>助教の順となっているのは、准教授、助教において高い目標を掲げているチャレンジ精神のあらわれと解釈可能である。

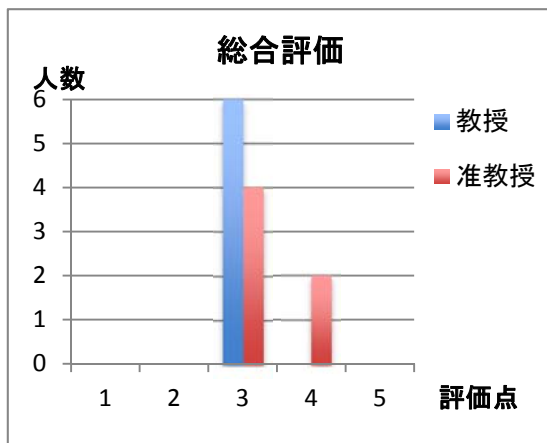
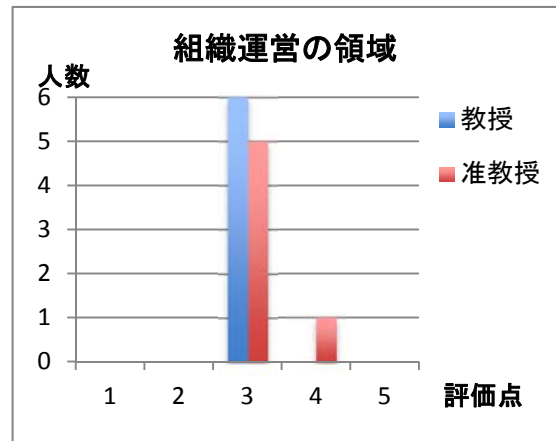
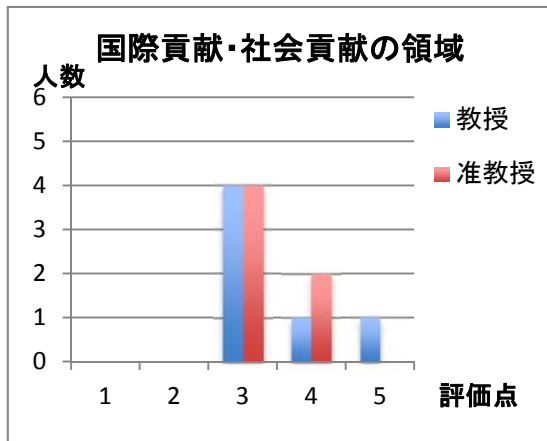
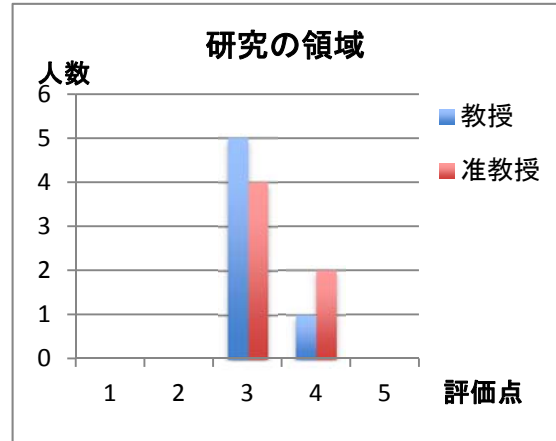
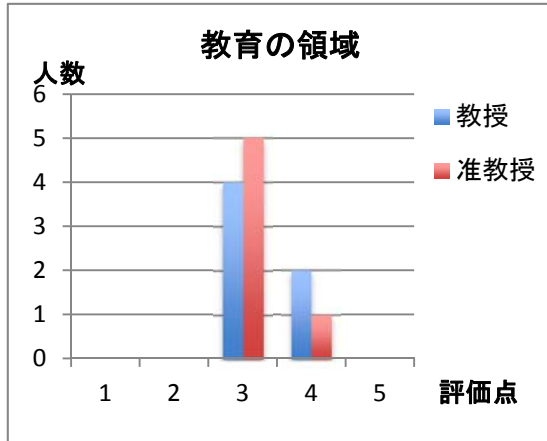
4.2. 評価領域に関する自己点検評価点のヒストグラム

以下のとおり専攻毎に各教員が自己点検した評価領域に関する評価点のヒストグラムを示す。「准教授」は准教授と講師の合計を表す。

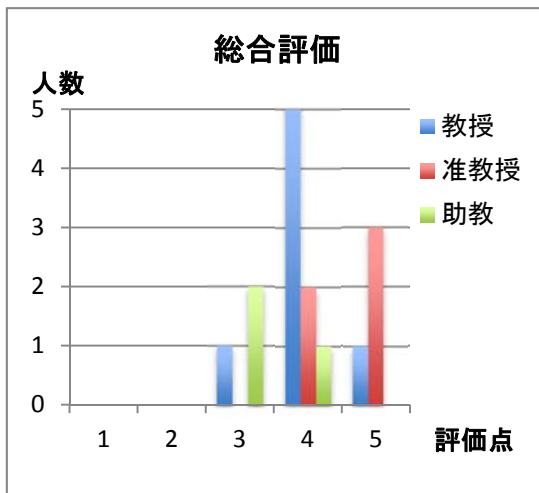
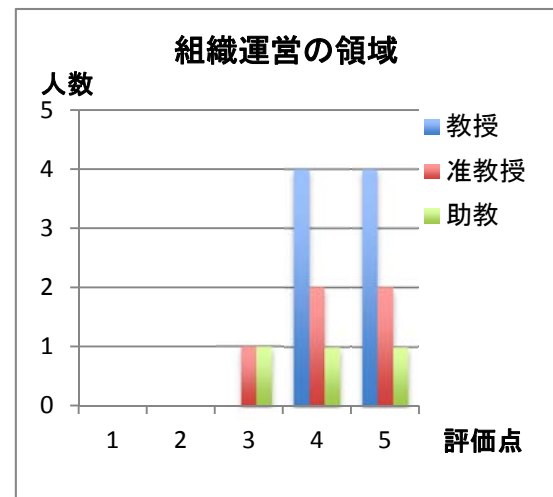
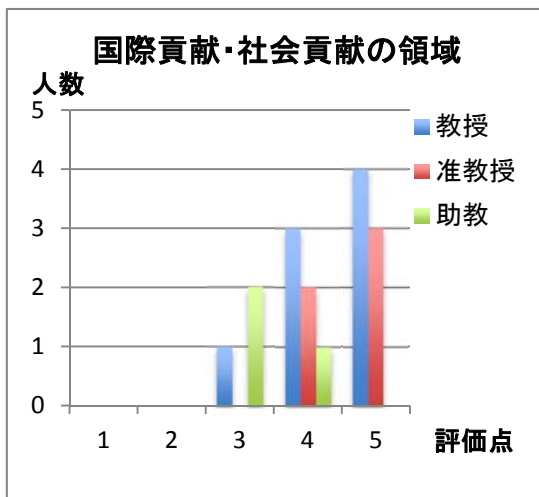
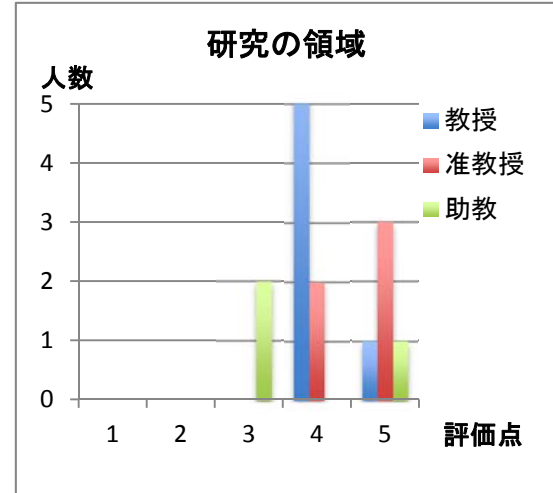
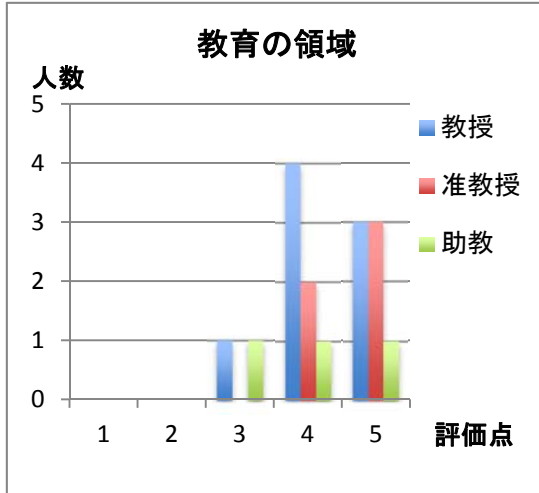
【数理科学専攻】



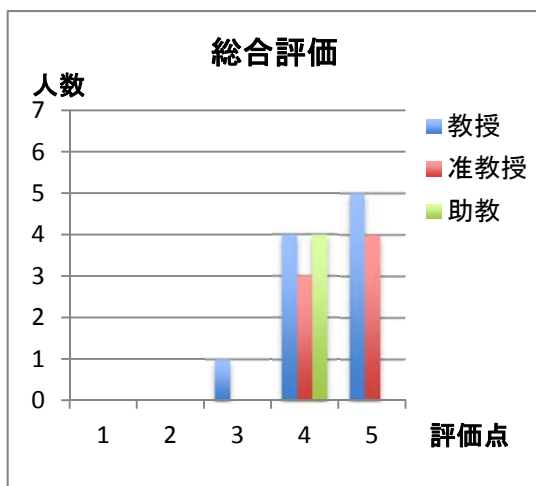
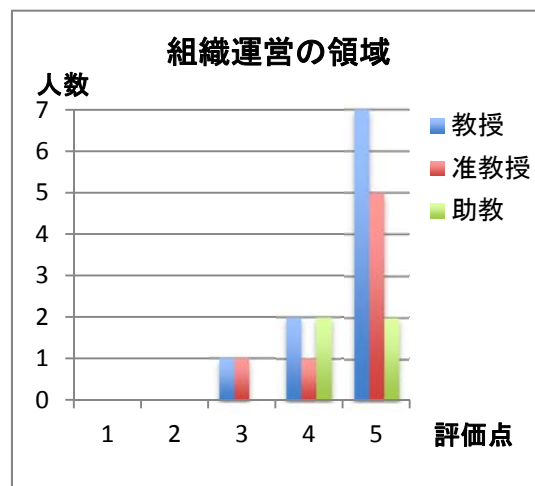
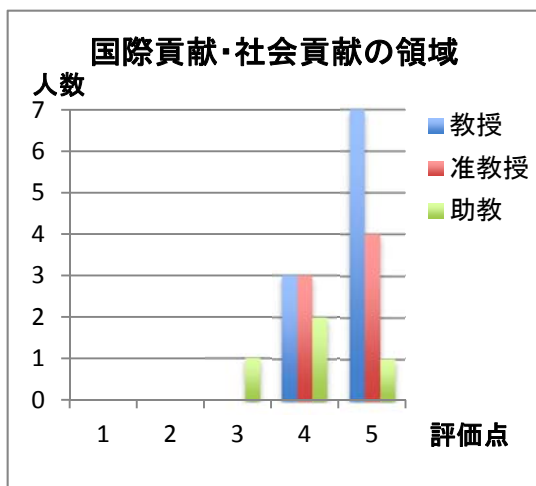
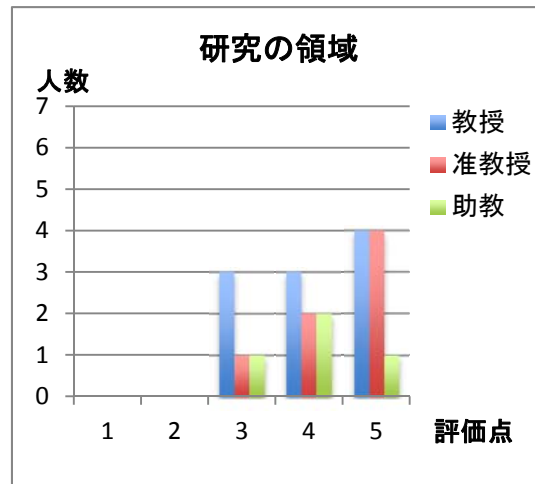
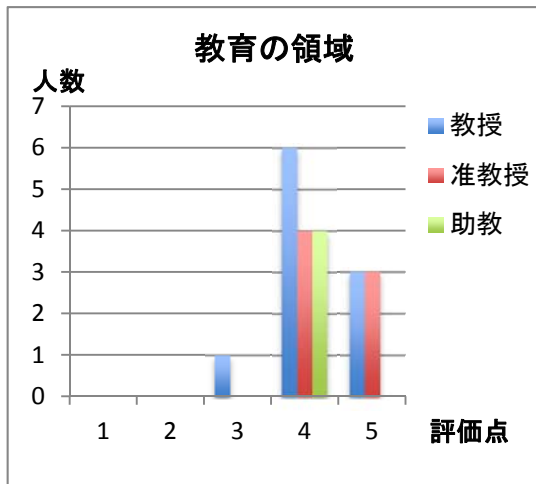
【物理科学専攻】



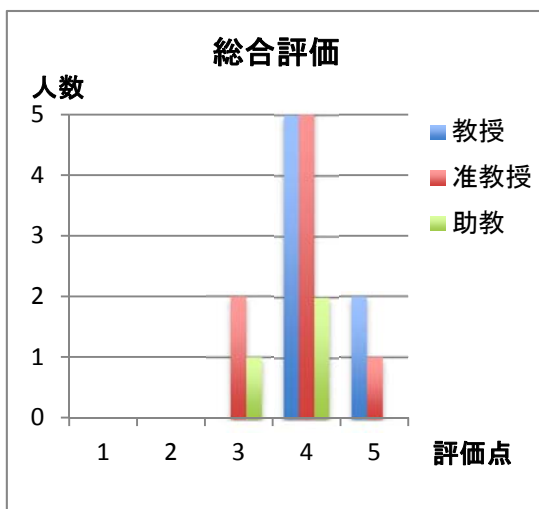
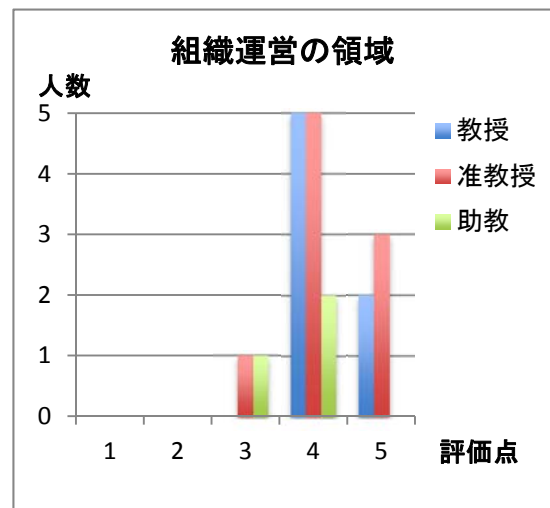
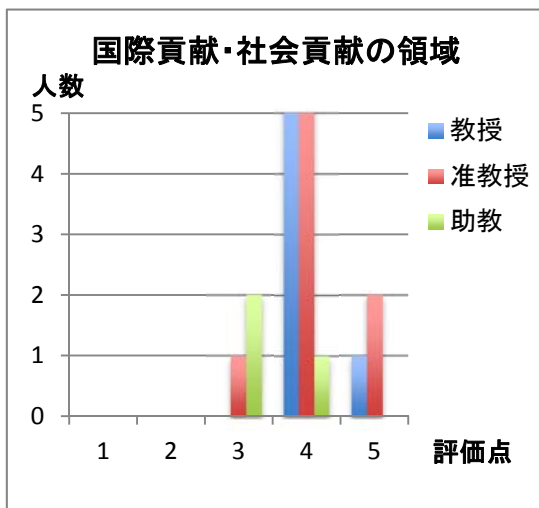
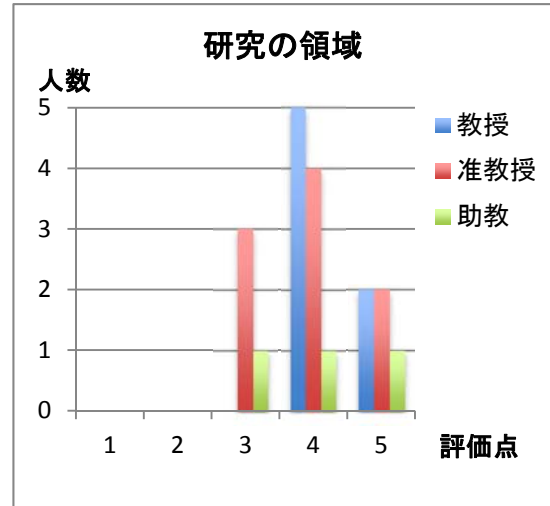
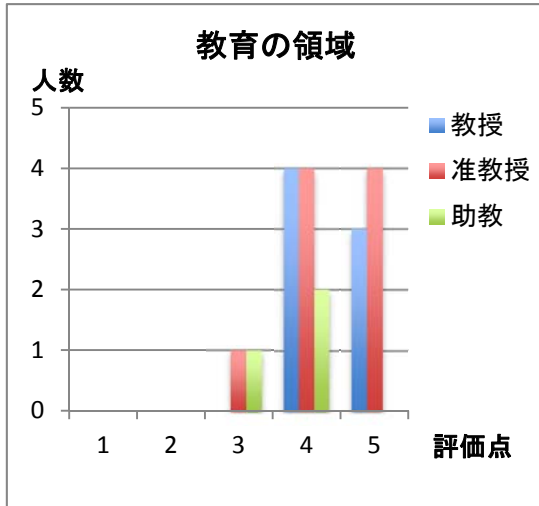
【知能情報システム学専攻】



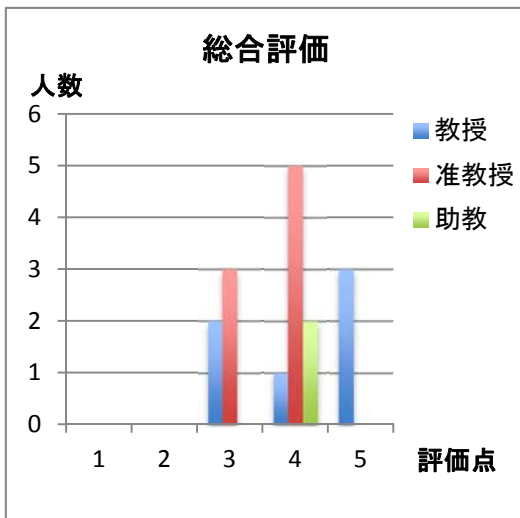
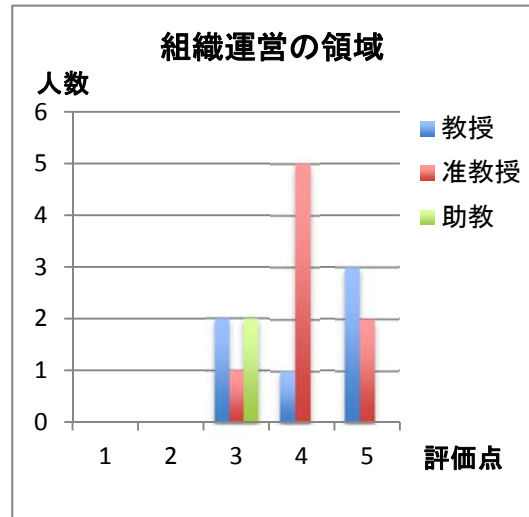
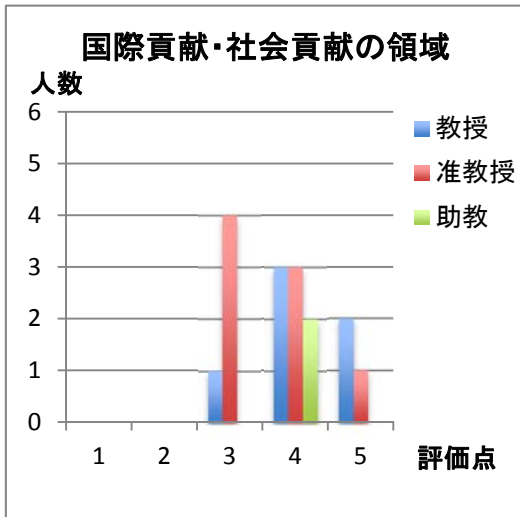
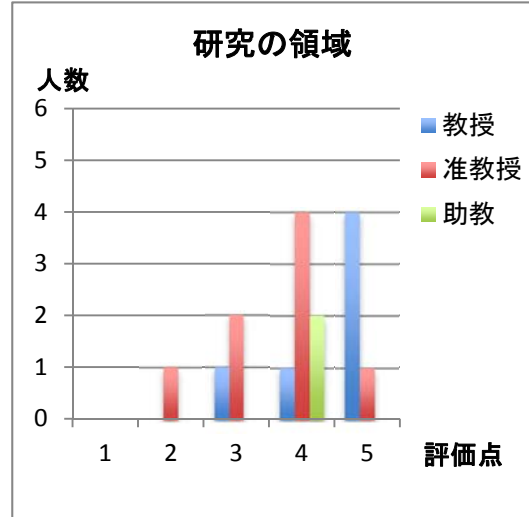
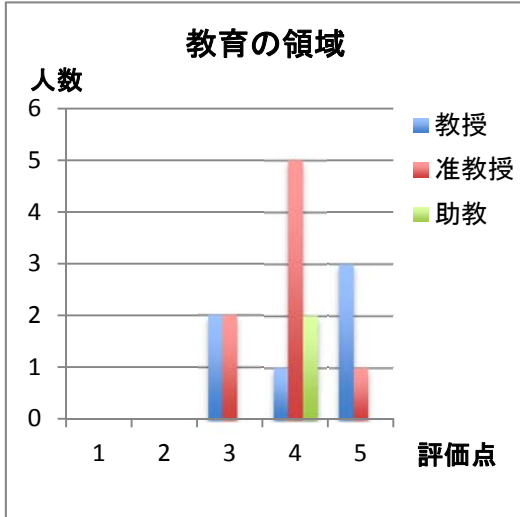
【循環物質化学専攻】



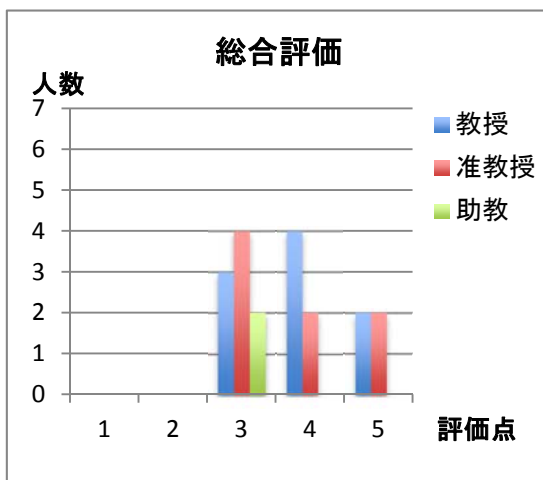
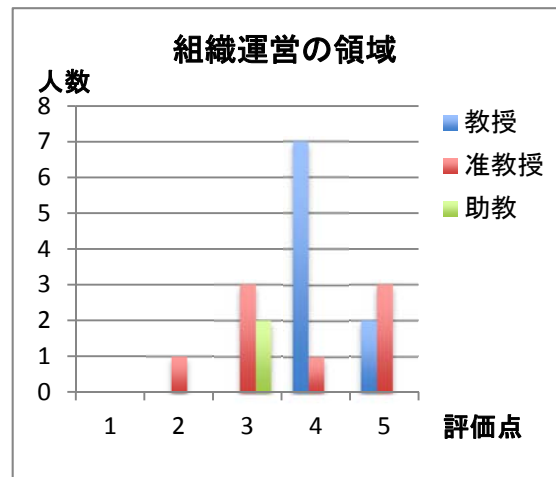
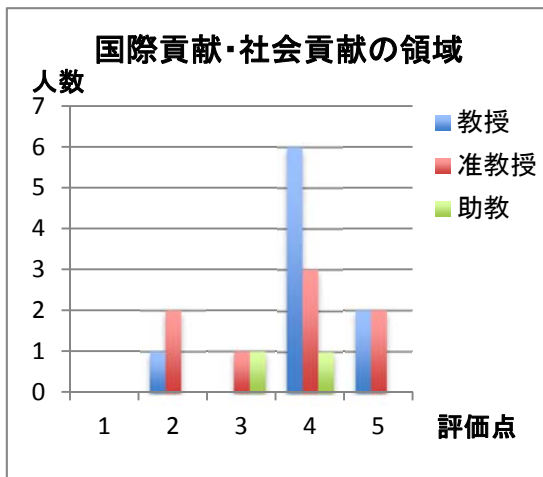
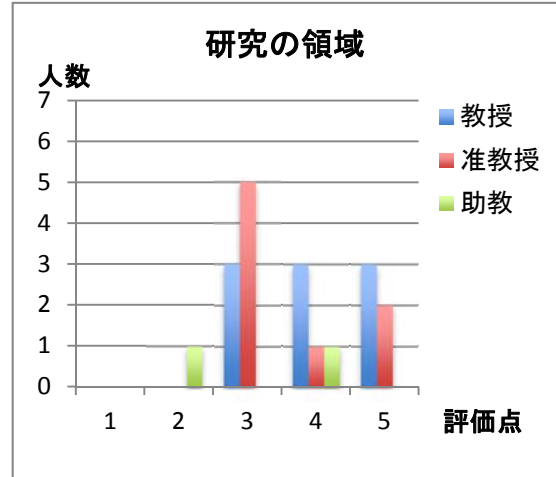
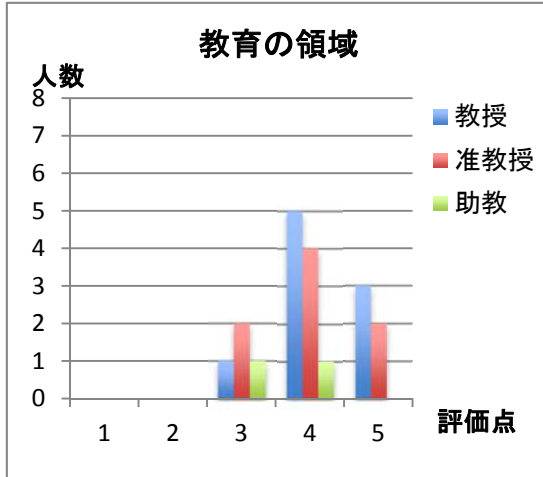
【機械システム工学専攻】



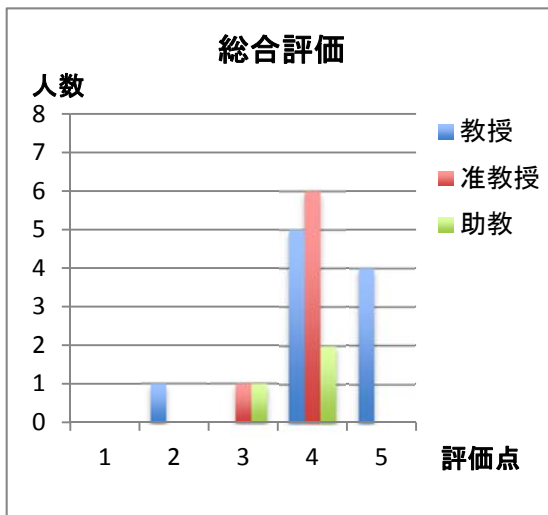
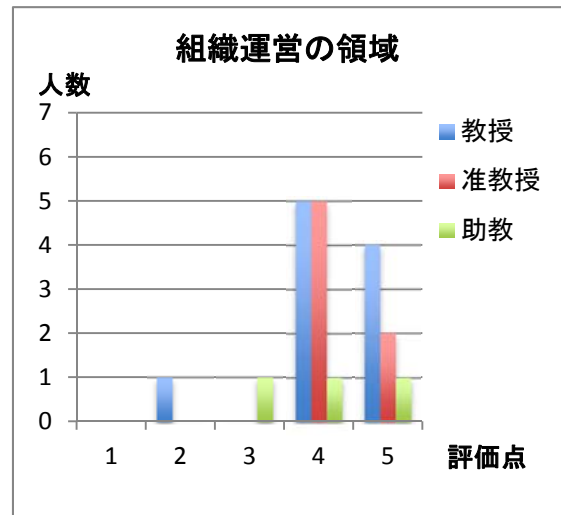
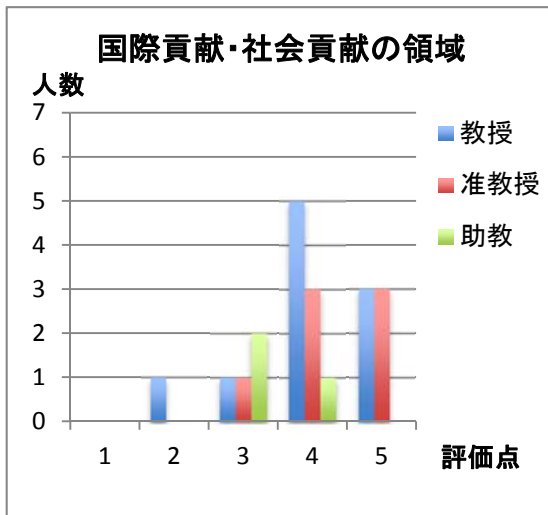
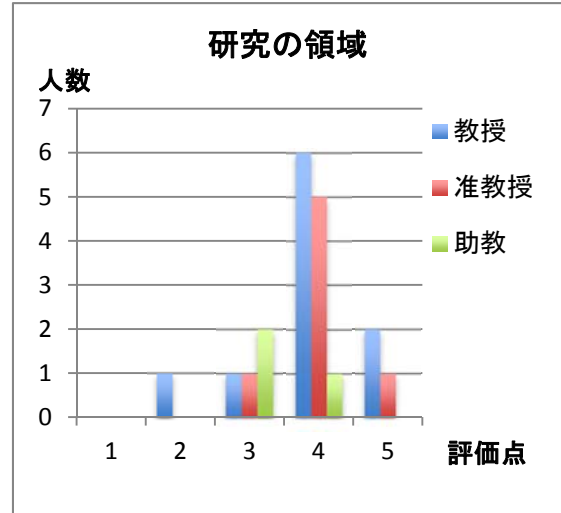
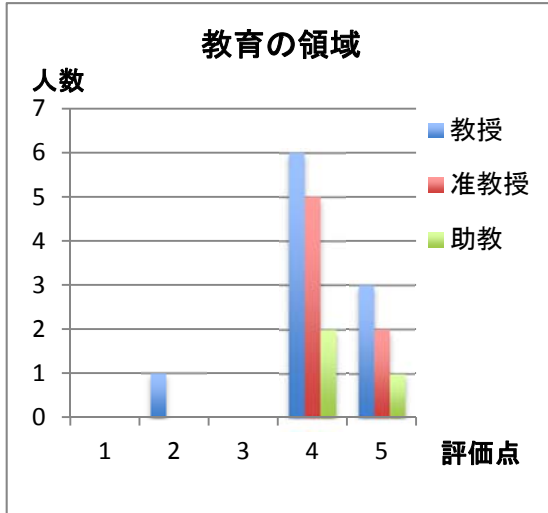
【電気電子工学専攻】



【都市工学専攻】



【先端融合工学専攻】



4.3. 評価委員からのコメント

各専攻の評価委員からのコメントを以下にまとめる。

【数理学専攻】

1. 各教員が真摯に研究及び教育活動を行い、高い科研費採択率や入試問題作成などにおいて、本学・本研究科に貢献している。自己評価はおおむね妥当である。
2. 過去の年度と比較して、アクチュアリー関係の講義の工夫など、就職支援を意識した試みの新たな展開がみられる。

【物理学専攻】

1. 教育活動について：教員は、各自創意工夫して教育の質の向上に取り組んでいる。また、自宅学習のための課題を用意するなど、学習時間を増やす努力が行われている。教養教育など全学的な教育にも、部局長を務めるなど、大きな貢献をしている教員がいる。ただし、以前より一部の教員にみられる過重負担のおそれは、専攻内での支援があるが、完全には解消していない。
2. 研究活動について：論文数などを見ても、概ね高いアクティビティを維持していると思われる。大学院生や学部学生による学会発表、国際会議発表なども継続して行われており、研究の高いアクティビティが教育の活性化にもつながっている。専攻としては、若い准教授層の教育負担を減らすなどの形で研究支援を行っている。
3. 社会貢献・国際交流について：社会貢献・国際交流の活動も継続、活性化されている。また専門性を活かしてSSH事業にも貢献している。
4. 組織運営について：大学の組織運営においては、一部の教員が大学や学部など運営に重要な役割を果たしている。専攻は、重い運営業務を担っている教員の専攻内の負担を減らすなどの形の支援を継続して行っている。
5. 健康上の理由で十分な活動ができなかった教員については、専攻内で支援を継続しており、徐々に復帰しつつある。

【知能情報システム学専攻】

1. 教育の領域においては、若干の負荷の偏りのあるものの、各教員が適切に実施している。特に、TBL、LMSなどを活用した改善の取り組みが行われている。また、TPワークショップへの参加だけでなく講師としての活動がある。専攻全体では、継続的に授業点検が実施されている。
2. 研究においては、各教員が活発に研究活動を行っている。学外との共同研究も活発である。
3. 国際交流の領域においては、留学生受け入れや国際パートナーシッププログラム、日韓交流事業などを通じた国際交流などがあった。
4. 社会貢献の領域においては、学会活動のほか、佐賀県その他の審議会委員、各種協

議会運営委員等の活動が行われている。

5. 組織運営の領域では、全学教育機構併任、法人組織（室）への参画などが行われている。

以上より、専攻全体として、諸領域での活動が活発に行われていると評価する。

【循環物質化学専攻】

循環物質化学専攻では、教員個人が教育、研究、国際貢献・地域貢献、組織運営の各領域においてバランス良く優れた成果を上げており、専攻として優れた貢献をしていると評価できる。

1. 学部教育においてはJABEE認定プログラムを継続し、質の高い教育を行っている。機能材料化学コースでは、JABEE認定の継続審査における6年認定を受けた実績を維持しており、物質化学コースにおいても材料化学コース同等の教育体制を構築して差異の無い充実した教育体制を整えている。また、各教員の授業改善に対する意欲も旺盛である。大学院教育においては、博士前期課程のみならず、博士後期課程においても多くの学生を指導しており、着実な教育・研究成果を上げている。博士課程の学生に対する研究を通じた教育の成果は学会での受賞や学生自身の執筆による論文発表などに反映されている。
2. 研究においては、多くの教員が主に査読付きの英文誌に論文発表をしており、発表論文の中にはIF値が極めて高い雑誌への発表も含まれており、研究の質の高さが伺える。また、多くの教員が学科、研究科、学部間で連携し、共同研究を行い、学長経費や研究科長経費、連携大学院共同研究費を獲得している。これらのシーズ研究の内部資金としての支援によって、次年度以降の外部資金獲得に向けて活動中である。さらに、市・県・官庁、他大学、民間企業と共同研究や受託研究を行い、外部資金を獲得して成果を上げており、専攻として優れた研究分野での貢献をしていると評価できる。
3. 国際貢献については、多くの研究者が国際学会への参加・発表を行う中で海外の研究者との研究交流を活発に行っている。また、国際学会の運営委員を務めたり、海外の大学との共同研究も開始されている。研究科の支援による国際パートナーシッププログラムや国際化推進事業（外国人研究者招へい事業）にも積極的に専攻として貢献している。地域貢献については、地域の研究アドバイザーとして講師を務める教員や、佐賀県や九州地区の理科教育への協力、佐賀地域の理科・科学振興のための事業への参画など、多くの教員が地域貢献に尽力している。社会貢献としては、多くの教員が学会の主要な委員を務めたり、非営利団体と連携するなどして、学会活動等にも努めている。このように、国際・地域・社会貢献にバランス良く活躍しており、優れた貢献をしていると評価できる。
4. 組織運営については、全学、研究科、専攻において本専攻教員は幅広く組織運営の責務を果たして活躍しており、また過剰と思われるほど多くの教員が重責を担う役

職任務を遂行しており、貢献度は極めて高いと評価できる。また、当専攻はその学問的基盤によりエコアクション等の安全管理にも学内で先導的活動を行っている。

【機械システム工学専攻】

1. 機械システム工学科の教育プログラムは日本技術者教育認定機構の JABEE 認定を受けている。この認定プログラムは継続的な点検・改善を必要とし、定期的に日本技術者認定機構による審査が行われるが、直近では平成 22 年 10 月に継続審査、平成 25 年 10 月に中間審査が完了した。この事実は当学科で質の高い教育が保証・維持されていることの証左であり、教員の日々の研鑽により導かれた結果といえる。また、個々の講義に関しては、定年退職や定員削減などで教員一人当たりの担当科目数が増える中、各教員が学科の目標に沿って学生を育成しようとする努力が見られる。
2. 大学院教育に関しては、講義での専門知識の修得に加えて、丁寧な研究指導による学生の能力の向上が図られている。大学院学生の国内外の学会での発表も多く行われている。
3. 研究の面では、教員の国内外の学会などでの論文発表が活発に実行されている。研究費については、科学研究費補助金だけでなく、NEDO などのプロジェクト研究や、企業との共同研究、奨学寄付金、財団からの研究助成などの受け入れについても積極的に取り組まれている。これらの実績から、機械システム工学専攻の研究に対し民間企業等が強い期待を持っていることが分かる。
4. 社会貢献・国際交流では、学会等の役員および委員会委員として活動し、また講演会、研究会なども精力的に開催している。さらに、外国人研究者の受け入れや、国際会議においての情報交換も積極的に行なわれている。
5. 上記(1)～(4)と自己評価結果を勘案して、全ての教員は各自の活動の自己評価を適切に行なっていると判断する。

【電気電子工学専攻】

1. 目標、達成において、個人の性格に強く依存する傾向となっている。
2. 各自の職名、役割に応じた的確な目標の判断であれば、絶対的に近い評価が可能。しかし、各自の能力を考慮する場合、各々の目標に対する相対的な評価となる。
3. (2)と関連するが、個人により達成率の表記が様々であると感じた。

【都市工学専攻】

1. 教育について
 - 学生の授業評価に基づき、小テスト、質問票、TA を用いた演習など学生の授業理解度を高める授業の工夫がなされ、授業の改善が図られている。
 - 来年度からの「都市工学ユニット演習」の実施のための準備を少しずつ行っている。

- 技術士や建築士の資格取得に向けた取り組みを行っており、効果が出つつある。
 - 授業のコマ数には教員によりバラツキがあり、より教育効果を高めるために教育負担をある程度は公平に保つことが求められる。
2. 研究について
 - 研究分野によることが原因であるかもしれないが、教員間で論文数にバラツキがある。しかしながら、多くの教員は博士前期課程あるいは後期課程の指導資格を維持できている。
 3. 地域・国際貢献について
 - 多くの教員が国や県の委員会や審査会などの委員として地域に貢献している。
 - 多くの教員がパートナーシッププログラム、外国からの教員・大学院生の受入、国際的共同研究などにより国際貢献を行っている。

【先端融合工学専攻】

1. 教育に関しては、評価点や達成率も高い。これは、教員各自の高い意欲の結果だけではなく、授業点検および授業点検報告の実施およびそれらに基づいた授業改善が機能していることを意味する。また、FD 講演会や TP ワークショップへの積極的参加から、さらなる教育改善に対する意欲と努力がうかがわれる。
2. 研究に関しては、各教員が多くの研究成果を出している他に、指導学生の国内学会、国際学会での発表も増えており、良い方向へ着実に進んでいると思われる。助教においては、査読付き論文中、和文論文の割合が教授・准教授に比べて高いことは興味深い。今後、研究成果を積極的に英文論文として発表することが期待される。研究資金獲得については、科研費が中心であるが外部資金獲得への努力も見られる。しかしながら科研費は基盤 C がほとんどであり、また大型外部資金の獲得も十分なものとは言えない。大型外部資金の獲得が今後の課題である。
3. 社会貢献・国際交流に関しては、多くの学会や地域の協議会・審議会の役員等を務めている。評価点や達成率の平均値も高めであり、社会貢献や国際交流に対する理解と努力が感じられる。特に学術交流協定を結んでいる海外の大学との活発な交流が目についた。
4. 組織運営については、全教員の積極的な関与が見られ、各教員の評価点や達成率も高い。
5. 個人評価は、各自達成目標を異にするため成果の評点を単純に比較することは無理があるが、教員はおおむね各自の活動に適切なレベルの目標を設定し、自己評価を適切に行っていると判断する。

平成 27 年度工学系研究科評価委員会委員

委員長	石橋孝治	(研究科長)
委員	萩原世也	(副研究科長・評議員)
委員	花本猛士	(副研究科長)
委員	服部信祐	(副研究科長)
委員	船久保公一	(研究科長補佐)
委員	後藤 聡	(大学教育委員会・教育質保証専門委員会委員)
委員	帯屋洋之	(教務委員会委員長)
委員	半田賢司	(数理科学専攻長)
委員	河野宏明	(物理科学専攻長)
委員	只木進一	(知能情報システム学専攻長)
委員	高椋利幸	(循環物質化学専攻長)
委員	宮良明男	(機械システム工学専攻長)
委員	大石敏之	(電気電子工学専攻長)
委員	三島伸雄	(都市工学専攻長)
委員	高橋英嗣	(先端融合工学専攻長)
委員	淵上道晴	(工学系研究科事務長)